

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科等連係課程実施基本組織の設置（研究科の専攻に係る課程の変更）								
フリガナ設置者	コクリツカクイカクホウジン トヤマダクイカク 国立大学法人 富山大学								
フリガナ大学の名称	トヤマダクイカクイカク 富山大学大学院								
大学本部の位置	富山県富山市五福3190								
大学の目的	本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	本学環は、医学、薬学、理学及び工学を総合した特色ある教育と研究を礎とし、幅広い知識を基盤とする高い専門性と人間尊重の精神を基本とする豊かな創造力を培い、学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる総合的な判断力を有する専門職業人又は教育研究者としての人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	研究科等連係課程実施基本組織等 学位の分野： 医学関係 薬学関係 理学関係 工学関係 14条特例の実施 学位の分野： 医学関係 保健衛生学関係（看護学関係） 薬学関係 学位の分野： 理学関係 工学関係
	研究科等連係課程実施基本組織 医薬理工学環（博士後期課程）	3	12	-	36	博士(薬科学) 博士(神経科学) 博士(医工学)	令和6年 4月 第1年次	富山県富山市五福3190番地 富山県富山市杉谷2630番地	
	連係協力研究科（Ⅰ） 総合医薬学研究科 総合医薬学専攻（博士課程・博士後期課程）	4 3	34 16	-	184	博士(医学) 博士(看護学) 博士(薬学) 博士(薬科学)	令和6年 4月 第1年次	富山県富山市杉谷2630番地	
	総合医薬学専攻から医薬理工学環の内数とする入学定員数		7	-	21				
	連係協力研究科（Ⅱ） 理工学研究科 理工学専攻（博士後期課程）	3	29	-	87	博士(数理情報学) 博士(理工学) 博士(理学) 博士(工学)	令和6年 4月 第1年次	富山県富山市五福3190番地	
	理工学専攻から医薬理工学環の内数とする入学定員数		5	-	15				
計		-	-	-					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	○学生募集の停止 ※令和6年4月学生募集停止(3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止) 経済学部 経済学科(廃止) 昼間主コース (△135) (△ 4) 夜間主コース (△ 10) 経営学科(廃止) 昼間主コース (△108) (△ 4) 夜間主コース (△ 10) 経営法学科(廃止) 昼間主コース (△ 92) (△ 2) 夜間主コース (△ 10)								

同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	<p>理学部</p> <p>数学科 (廃止) (△ 45)</p> <p>物理学科 (廃止) (△ 40) (△ 1)</p> <p>化学科 (廃止) (△ 35) (△ 1)</p> <p>生物学科 (廃止) (△ 38) (△ 1)</p> <p>自然環境科学科 (廃止) (△ 35) (△ 1)</p> <p>生命融合科学教育部 (廃止)</p> <p>認知・情動脳科学専攻(D) (△ 9)</p> <p>生体情報システム科学専攻(D) (△ 4)</p> <p>先端ナノ・バイオ科学専攻(D) (△ 4)</p> <p>医学薬学教育部 (廃止)</p> <p>看護学専攻(D) (△ 3)</p> <p>薬科学専攻(D) (△ 8)</p> <p>生命・臨床医学専攻(D) (△ 18)</p> <p>東西統合医学専攻(D) (△ 7)</p> <p>薬学専攻(D) (△ 4)</p> <p>理工学教育部 (廃止)</p> <p>数理・ヒューマンシステム科学専攻(D) (△ 5)</p> <p>ナノ新機能物質科学専攻(D) (△ 4)</p> <p>新エネルギー科学専攻(D) (△ 3)</p> <p>地球生命環境科学専攻(D) (△ 4)</p> <p>○設置 (令和5年8月届出予定)</p> <p>[学部]</p> <p>経済学部 経済経営学科 (335) (10)</p> <p>理学部 理学科 (208) (4)</p> <p>[大学院]</p> <p>総合医薬学研究科 総合医薬学専攻(D) (50)</p> <p>理工学研究科 理工学専攻(D) (29)</p> <p>医薬理工学環(D) (12)</p> <p>○入学定員の変更 (令和6年4月)</p> <p>工学部 工学科 [定員増] (15)</p> <p>理工学研究科 理工学専攻(M) [定員増] (24)</p> <p>○課程名称の変更 (令和6年4月)</p> <p>総合医薬学研究科 総合医薬学専攻 修士課程 → 修士課程・博士前期課程</p> <p>理工学研究科 理工学専攻 医薬理工学環 修士課程 → 博士前期課程</p>								
	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数			卒業要件単位数			
教育課程	研究科等連係課程実施基本組織 医薬理工学環	講義 21科目	演習 7科目	実験・実習 9科目	計 37科目	16単位以上			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設	研究科等連係課程実施基本組織 医薬理工学環 (博士後期課程)	教授 人	准教授 人	講師 人	助教 人	計 人	助手 人	兼任教員等 人
		連係協力研究科(I) 総合医薬学研究科 総合医薬学専攻 (博士課程・博士後期課程)	<0> 【40】 (41)	<1> 【21】 (22)	<0> 【5】 (5)	<0> 【3】 (3)	<1> 【69】 (71)	<0> 【0】 (0)	<0> 【6】 (6)
		連係協力研究科(II) 理工学研究科 理工学専攻 (博士後期課程)							
計		40 (41)	22 (22)	5 (5)	3 (3)	70 (71)	0 (0)	- (-)	
既設	総合医薬学研究科 総合医薬学専攻 (博士課程・博士後期課程)	59 【26】 (61)	42 【12】 (42)	14 【2】 (14)	14 【3】 (14)	129 【43】 (131)	0 【0】 (0)	38 【4】 (38)	※令和5年8月 設置届出予定
	理工学研究科 理工学専攻 (博士後期課程)	69 【14】 (69)	58 【9】 (58)	17 【3】 (17)	17 【0】 (17)	161 【26】 (161)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	※令和5年8月 設置届出予定

教 員 組 織 の 概 要	既 設	人文社会芸術総合研究科 人文社会芸術総合専攻（修士課程）	67 (67)	46 (46)	19 (19)	0 (0)	132 (132)	0 (0)	34 (34)	
		総合医薬学研究科 総合医薬学専攻（修士課程・博士前期課程）	76 (78)	57 (57)	12 (12)	18 (18)	163 (165)	0 (0)	40 (40)	
		理工学研究科 理工学専攻（博士前期課程）	95 (95)	63 (63)	18 (18)	30 (30)	206 (206)	0 (0)	34 (34)	
		研究科等連係課程実施基本組織 持続可能社会創成学環（修士課程）								
		連係協力研究科（Ⅰ） 人文社会芸術総合研究科 人文社会芸術総合専攻（修士課程）	<2> 【20】 (22)	<2> 【8】 (10)	<1> 【1】 (2)	<1> 【2】 (3)	<6> 【31】 (37)	<0> 【0】 (0)	<0> 【37】 (37)	
		連係協力研究科（Ⅱ） 理工学研究科 理工学専攻（博士前期課程）								
		研究科等連係課程実施基本組織 医薬理工学環（博士前期課程）								
		連係協力研究科（Ⅰ） 総合医薬学研究科 総合医薬学専攻（修士課程・博士前期課程）	<1> 【53】 (55)	<0> 【26】 (26)	<0> 【6】 (6)	<0> 【5】 (5)	<1> 【90】 (92)	<0> 【0】 (0)	<0> 【79】 (79)	
		連係協力研究科（Ⅱ） 理工学研究科 理工学専攻（博士前期課程）								
		教職実践開発研究科（専門職学位課程）	9 (9)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	9 (9)	
計	250 (252)	175 (175)	57 (57)	49 (49)	531 (533)	0 (0)	- (-)			
合計	250 (252)	175 (175)	57 (57)	49 (49)	531 (533)	0 (0)	- (-)			
教員以外の職員の概要	職 種	専 任	兼 任		計					
	事 務 職 員	381 (381)	69 (69)		450 (450)					
	技 術 職 員	977 (977)	65 (65)		1,042 (1,042)					
	図 書 館 専 門 職 員	17 (17)	0 (0)		17 (17)					
	そ の 他 の 職 員	18 (18)	25 (25)		43 (43)					
	計	1,393 (1,393)	159 (159)		1,552 (1,552)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計				
	校 舎 敷 地	517,871 m ²	- m ²	- m ²		517,871 m ²				
	運 動 場 用 地	105,572 m ²	- m ²	- m ²		105,572 m ²				
	小 計	623,443 m ²	- m ²	- m ²		623,443 m ²				
	そ の 他	90,179 m ²	- m ²	- m ²		90,179 m ²				
	合 計	713,622 m ²	- m ²	- m ²		713,622 m ²				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計					
	230,943 m ² (230,943 m ²)	- m ² (- m ²)	- m ² (- m ²)		230,943 m ² (230,943 m ²)					
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	129室	239室	678室	20室 (補助職員 14人)	2室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数						
	医薬理工学環			79 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学環単位での特定不能なため、 大学全体の数		
	医薬理工学環	1,328,175 [418,261] (1,328,175 [418,261])	68,409 [21,405] (68,409 [21,405])	45,487 [14,227] (45,487 [14,227])	18,002 (18,002)	37 (37)	0 (0)			
	計	1,328,175 [418,261] (1,328,175 [418,261])	68,409 [21,405] (68,409 [21,405])	45,487 [14,227] (45,487 [14,227])	18,002 (18,002)	37 (37)	0 (0)			
図 書 館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
	13,840 m ²		1,418		1,040,086					

体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						大学全体
		7,112 m ²		弓道場・武道館プール・テニスコート						
経費の見積り 及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による	
		教員1人当り研究費等	-	-	-	-	-	-		
		共同研究費等	-	-	-	-	-	-		
		図書購入費	-	-	-	-	-	-		
	設備購入費	-	-	-	-	-	-			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			—							
既設大学等の状況										
大学の名称	富山大学									
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
人文学部	4年	188人	3年次7人	730人	-	1.08		-		
人文学科	4	188	3年次7	730	学士(文学)	1.08	昭和52	富山県富山市五福3190番地	令和4年度入学定員増(18人)	
教育学部	4	85	-	170	-	1.04		-		
共同教育課程	4	85	-	170	学士(教育学)	1.04	令和4	富山県富山市五福3190番地		
人間発達科学部	4	-	-	-	-	-		-		
発達教育学科	4	-	-	-	学士(教育学)	-	平成17	富山県富山市五福3190番地	※令和4年度より学生募集停止	
人間環境システム学科	4	-	-	-	学士(教育学)	-	平成17	同上	※令和4年度より学生募集停止	
経済学部	4	365	3年次10	1,420	-	1.04		-		
(昼間主コース)	4	335	3年次10	1,300	-	1.03		-		
経済学科	4	135	3年次4	518	学士(経済学)	1.05	平成30	富山県富山市五福3190番地	令和4年度入学定員増(15人)	
経営学科	4	108	3年次4	424	学士(経営学)	1.02	平成30	同上	令和4年度入学定員増(8人)	
経営法学科	4	92	3年次2	358	学士(法学)	1.02	平成30	同上	令和4年度入学定員増(7人)	
(夜間主コース)	4	30	-	120	-	1.07		-		
経済学科	4	10	-	40	学士(経済学)	1.10	平成30	富山県富山市五福3190番地		
経営学科	4	10	-	40	学士(経営学)	1.02	平成30	同上		
経営法学科	4	10	-	40	学士(法学)	1.10	平成30	同上		
理学部	4	193	3年次4	774	-	1.07		-		
数学科	4	45	-	190	学士(理学)	1.07	昭和52	富山県富山市五福3190番地	令和4年度入学定員減(5人)	
物理学科	4	40	3年次1	162	学士(理学)	1.12	昭和52	同上		
化学科	4	35	3年次1	142	学士(理学)	1.07	昭和52	同上		
生物学科	4	38	3年次1	148	学士(理学)	1.03	昭和52	同上	令和4年度入学定員増(3人)	
自然環境科学科	4	35	3年次1	132	学士(理学)	1.07	平成5	同上	令和4年度入学定員増(5人)	

既設 大学等 の 状 況	医学部												
	医学科	6	105	2年次 5	655	学士 (医学)	1.01	昭和50	富山県富山市杉谷 2630番地				
	看護学科	4	80	3年次 10	340	学士 (看護学)	0.95	平成5	同上				
	薬学部												
	薬学科	6	70	-	360	学士 (薬学)	1.04	平成18	富山県富山市杉谷 2630番地	令和4年度入学 定員増(15人)			
	創薬科学科	4	35	-	170	学士 (薬科学)	1.08	平成18	同上	令和4年度入学 定員減(15人)			
	工学部	4	380	3年次 17	1,524	-	1.05		-				
	工学科	4	380	3年次 17	1,524	学士 (工学)	1.05	平成30	富山県富山市五福 3190番地	令和4年度入学 定員増(15人)			
	電気電子システム工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成9	同上	※平成30年度より 学生募集停止			
	機械知能システム工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成9	同上	※平成30年度より 学生募集停止			
	環境応用化学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成20	同上	※平成30年度より 学生募集停止			
	材料機能工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成20	同上	※平成30年度より 学生募集停止			
	芸術文化学部	4	110	-	440	-	1.06		-				
	芸術文化学科	4	110	-	440	学士 (芸術文化学)	1.06	平成17	富山県高岡市二上 町180番地				
	都市デザイン学部	4	159	3年次 3	604	-	1.08		-				
	地球システム科学科	4	40	-	160	学士 (理学)	1.05	平成30	富山県富山市五福 3190番地				
	都市・交通デザイン学科	4	54	3年次 1	190	学士 (工学)	1.10	平成30	同上	令和4年度入学 定員増(14人)			
	材料デザイン工学科	4	65	3年次 2	254	学士 (工学)	1.08	平成30	同上	令和4年度入学 定員増(5人)			
	大学全体	-	1,770	56	7,527	-	-	-					
	人文社会芸術総合研究科 (修士課程)												
	人文社会芸術総合専攻	2	46 a-【8】	-	92 a-【16】	修士 (心理学、文 学、芸術文化 学、経済学、 経営学)	0.97	令和4	富山県富山市五福 3190番地 富山県高岡市二上 町180番地	aは持続可能社 会創成学環に活 用する入学定員 及び収容定員数			
	人文科学研究科 (修士課程)												
	人文科学専攻	2	-	-	-	修士 (文学)	-	平成23	富山県富山市五福 3190番地	※令和4年度より 学生募集停止			
人間発達科学研究科 (修士課程)													
発達教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	平成23	富山県富山市五福 3190番地	※令和4年度より 学生募集停止				
経済学研究科 (修士課程)													
地域・経済政策専攻	2	-	-	-	修士 (経済学)	-	平成3	富山県富山市五福 3190番地	※令和4年度より 学生募集停止				
企業経営専攻	2	-	-	-	修士 (経営学)	-	平成3	同上	※令和4年度より 学生募集停止				

既設大学等の状況	芸術文化学研究科 (修士課程)												
	芸術文化学専攻	2	-	-	-	修士 (芸術文化学)	-	平成23	富山県高岡市二上 町180番地	※令和4年度より 学生募集停止			
	総合医薬学研究科 (修士課程)												
	総合医薬学専攻	2	66 b-【8】	-	132 b-【16】	修士 (医科学、看護学、薬科学)	0.90	令和4	富山県富山市杉谷 2630番地	bは医薬理工学環 に活用する入学定員 及び収容定員数			
	医学薬学教育部 (修士課程)												
	医科学専攻	2	-	-	-	修士 (医科学)	-	平成18	富山県富山市杉谷 2630番地	※令和4年度より 学生募集停止			
	(博士前期課程)												
	看護学専攻	2	-	-	-	修士 (看護学)	-	平成27	同上	※令和4年度より 学生募集停止			
	薬科学専攻	2	-	-	-	修士 (薬科学)	-	平成22	同上	※令和4年度より 学生募集停止			
	(博士後期課程)												
	看護学専攻	3	3	-	9	博士 (看護学)	2.44	平成27	同上				
	薬科学専攻	3	8	-	24	博士 (薬科学)	1.70	平成24	同上				
	(博士課程)												
	生命・臨床医学専攻	4	18	-	72	博士 (医学)	1.16	平成18	同上				
	東西統合医学専攻	4	7	-	28	博士 (医学)	0.50	平成18	同上				
	薬学専攻	4	4	-	16	博士 (薬学)	0.37	平成24	同上				
	理工学研究科 (修士課程)												
	理工学専攻	2	288 a-【10】 b-【29】	-	576 a-【20】 b-【58】	修士 (理学、工学、 理工学、数理情報学)	1.24	令和4	富山県富山市五福 3190番地	aは持続可能社会創成学環、bは 医薬理工学環に活用 する入学定員及び収 容定員数			
	理工学教育部 (修士課程)												
	生物学専攻	2	-	-	-	修士 (理学)	-	平成18	富山県富山市五福 3190番地	※令和4年度より 学生募集停止			
地球科学専攻	2	-	-	-	修士 (理学)	-	平成18	同上	※令和4年度より 学生募集停止				
生物圏環境科学専攻	2	-	-	-	修士 (理学)	-	平成18	同上	※令和4年度より 学生募集停止				
電気電子システム工学専攻	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成18	同上	※令和4年度より 学生募集停止				
知能情報工学専攻	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成18	同上	※令和4年度より 学生募集停止				
生命工学専攻	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成24	同上	※令和4年度より 学生募集停止				
環境応用化学専攻	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成24	同上	※令和4年度より 学生募集停止				
材料機能工学専攻	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成24	同上	※令和4年度より 学生募集停止				

既設大学等の状況	(博士課程)									
	数理・ヒューマンシステム科学専攻	3	5	-	15	博士 (理学、工学)	2.40	平成18	同上	
	ナノ新機能物質科学専攻	3	4	-	12	博士 (理学、工学)	2.50	平成18	同上	
	新エネルギー科学専攻	3	3	-	9	博士 (理学、工学)	1.11	平成18	同上	
	地球生命環境科学専攻	3	4	-	12	博士 (理学、工学)	1.91	平成18	同上	
	生命融合科学教育部 (博士課程)								-	
	認知・情動脳科学専攻	4	9	-	36	博士 (医学)	0.83	平成18	富山県富山市杉谷 2630番地	
	生体情報システム科学専攻	3	4	-	12	博士 (薬科学、理 学、工学)	0.16	平成18	富山県富山市五福 3190番地	
	先端ナノ・バイオ科学専攻	3	4	-	12	博士 (薬科学、理 学、工学)	0.50	平成18	同上	
	持続可能社会創成学環 (修士課程)	2	【18】	-	【36】	修士 (学術、サス テナビリ ティ学)	1.25	令和4	富山県富山市五福 3190番地	
	医薬理工学環 (修士課程)	2	【37】	-	【74】	修士 (薬科学、神 経科学、医工 学)	1.32	令和4	富山県富山市五福 3190番地 富山県富山市杉谷 2630番地	
	教職実践開発研究科 (専門職学位課程)								-	
教職実践開発専攻	2	14	-	28	教職修士 (専門職)	1.07	平成28	富山県富山市五福 3190番地		
大学院全体	-	487	-	1,085	-	-	-	-		
附属施設の概要	<p>名称： 附属病院 目的： 診療を通じて医学、薬学の教育及び研究を行うことを目的とする。 所在地： 富山市杉谷2630 設置年月： 昭和54年4月 規模等： 建物 56,819㎡</p> <p>名称： 和漢医薬学総合研究所 目的： 和漢薬に関する学理及びその応用の研究並びに教育を行うことを目的とする。 所在地： 富山市杉谷2630 設置年月： 昭和49年6月（富山大学附置和漢薬研究所） 昭和53年6月（富山医科薬科大学附置和漢薬研究所） 規模等： 建物 3,909㎡</p> <p>名称： 附属図書館 目的： 大学の理念・目標に基づき、教育及び研究に必要な図書、雑誌、データベースその他の資料を収集し、管理し、職員及び学生の利用に供することを目的とする。 所在地： 富山市五福3190（中央図書館） 富山市杉谷2630（医薬学図書館） 高岡市二上町180（芸術文化図書館） 設置年月： 昭和24年5月（中央図書館） 昭和50年10月（医薬学図書館） 昭和62年3月（芸術文化図書館） 規模等： 建物 9,589㎡（中央図書館） 3,285㎡（医薬学図書館） 966㎡（芸術文化図書館）</p> <p>名称： 教育・学生支援機構 目的： アドミッションポリシーで求める人材の確保、教育の質保証及び教育の質の向上並びに学生の充実した修学・生活環境の構築を図るために必要な全学的な施策の推進、調整、支援及び諸課題への対応を総合的に行い、もって人材の育成に寄与する。 所在地： 富山市五福3190 設置年月： 平成27年4月 規模等： 建物 多目的施設・学生会館 2,985㎡の一部</p>									

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称： 研究推進機構 目的： 大学における特色ある研究の推進と、多様な分野での研究の推進を支援するとともに、世界と地域に向けて研究成果を発信し、将来を担う人材の育成に寄与する。 所在地： 富山市五福3190、富山市杉谷2630 設置年月： 平成27年4月 規模等： 建物 14,958㎡</p> <p>名称： 地域連携推進機構 目的： 社会人教育による市民生活の充実及び地域課題解決への先導的役割等を果たすとともに、地域社会と連携する中核拠点としての機能を果たすことにより、地域社会の発展に寄与する。 所在地： 富山市五福3190、富山市杉谷2630、高岡市二上町180 設置年月： 平成20年7月 規模等： 建物 1,102㎡</p> <p>名称： 国際機構 目的： 国際化に関する事業を統括し、大学の国際化を推進する。 所在地： 富山市五福3190 設置年月： 平成11年4月（留学生センター） 平成25年10月（国際交流センター） 平成30年4月（国際機構） 規模等： 建物 380㎡</p> <p>名称： 総合情報基盤センター 目的： 大学における情報通信、情報処理及び情報共有のためのシステムを円滑かつ効率的に運用管理し、教育研究及びその他の諸活動を支援するとともに、地域社会の発展に資することを目的とする。 所在地： 富山市五福3190 設置年月： 平成8年5月（総合情報処理センター） 平成15年4月（総合情報基盤センター） 規模等： 建物 3,166㎡</p> <p>名称： 環境安全推進センター 目的： 環境配慮活動の推進、薬品管理、排水管理、廃棄物管理、作業環境管理、作業管理に関する指導・助言を行い、教育研究等に伴う環境に配慮した活動を推進することを目的とする。 所在地： 富山市五福3190 設置年月： 平成26年4月 規模等： 建物 459㎡</p> <p>名称： 自然観察実習センター 目的： 大学の共同教育研究施設として野外教育（自然観察・栽培等）の実習に利用すること及び本学の関連領域における教育・研究などの材料を育成管理し、提供することを目的とする。 所在地： 富山市寺町字草山2639-1 設置年月： 昭和56年7月 規模等： 土地 33,208㎡</p> <p>名称： 保健管理センター 目的： 大学における保健管理及び健康支援、これに関する研究及び教育を一体的に行い、学生及び職員の心身の健康の保持増進を図ることを目的とする。 所在地： 富山市五福3190、富山市杉谷2630、高岡市二上町180 設置年月： 平成17年10月 規模等： 建物 947㎡</p> <p>名称： 教育学部附属幼稚園 目的： 幼児の保育を行うとともに、教育学部に附属する教育研究の機関として、学部における幼児の保育に関する研究に協力し、学部の計画に基づき学生の教育実習の実施に当たる他、教育の理論と実践についての先進的な研究に取り組み、その成果を公開する。 所在地： 富山市五艘1300 設置年月： 昭和26年4月（教育学部附属幼稚園） 平成17年10月（人間発達科学部附属幼稚園） 令和4年4月（教育学部附属幼稚園） 規模等： 建物 988㎡</p>	
----------------	---	--

附属施設の概要	<p>名称： 教育学部附属小学校</p> <p>目的： 義務教育として行われる普通教育を施すとともに、教育学部に附属する教育研究の機関として、学部における児童の教育に関する研究に協力し、学部の計画に基づき学生の教育実習の実施に当たる他、教育の理論と実践についての先進的な研究に取り組み、その成果を公開する。</p> <p>所在地： 富山市五艘1300</p> <p>設置年月： 昭和26年4月（教育学部附属小学校） 平成17年10月（人間発達科学部附属小学校） 令和4年4月（教育学部附属小学校）</p> <p>規模等： 建物 4,809㎡</p>	
	<p>名称： 教育学部附属中学校</p> <p>目的： 義務教育として行われる普通教育を施すとともに、教育学部に附属する教育研究の機関として、学部における生徒の教育に関する研究に協力し、学部の計画に基づき学生の教育実習の実施に当たる他、教育の理論と実践についての先進的な研究に取り組み、その成果を公開する。</p> <p>所在地： 富山市五艘1300</p> <p>設置年月： 昭和26年4月（教育学部附属中学校） 平成17年10月（人間発達科学部附属中学校） 令和4年4月（教育学部附属中学校）</p> <p>規模等： 建物 6,006㎡</p>	
	<p>名称： 教育学部附属特別支援学校</p> <p>目的： 知的障害に係る特別支援教育を施すとともに、教育学部に附属する教育研究の機関として、学部における児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、学部の計画に基づき学生の教育実習の実施に当たる他、教育の理論と実践についての先進的な研究に取り組み、その成果を公開する。</p> <p>所在地： 富山市五艘1300</p> <p>設置年月： 昭和51年4月（教育学部附属養護学校） 平成17年10月（人間発達科学部附属養護学校） 平成19年4月（人間発達科学部附属特別支援学校） 令和4年4月（教育学部附属特別支援学校）</p> <p>規模等： 建物 3,493㎡</p>	
	<p>名称： 教育学部附属教育実践総合センター</p> <p>目的： 教育臨床・学習環境・教育工学・環境教育の4つの部門からなり、教育学部、他学部、他大学、学校、教育機関、生涯学習施設、企業などと連携しながら研究プロジェクトを推進し、教育実践及び教育臨床に関する理論的、実践的並びに学際的研究を総合的に行う。</p> <p>所在地： 富山市五福3190</p> <p>設置年月： 昭和57年4月（教育学部附属教育実践研究指導センター） 平成17年10月（人間発達科学部附属人間発達科学研究実践総合センター） 令和4年4月（教育学部附属教育実践総合センター）</p> <p>規模等： 建物 531㎡</p>	
	<p>名称： 薬学部附属薬用植物園</p> <p>目的： 薬用植物を栽培し、学術研究及び教育に資することを目的とする。</p> <p>所在地： 富山市杉谷2630</p> <p>設置年月： 昭和54年6月（富山医科薬科大学薬学部附属薬用植物園）</p> <p>規模等： 土地 13,334㎡</p>	

国立大学法人富山大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
富山大学				富山大学				
人文学部 人文学科	188	3年次 7	766	人文学部 人文学科	188	3年次 7	766	
教育学部 共同教員養成課程	85	-	340	教育学部 共同教員養成課程	85	-	340	
経済学部				経済学部				
経済学科		3年次		経済学科		3年次		
経済経営学科				経済経営学科	335	10	1,360	学科の設置(届出)
経済学				経済学				
昼間主コース	135	4	548	昼間主コース	0	0	0	令和6年4月学生募集停止
夜間主コース	10	-	40	夜間主コース	0	-	0	令和6年4月学生募集停止
経営学科				経営学科				
昼間主コース	108	4	440	昼間主コース	0	0	0	令和6年4月学生募集停止
夜間主コース	10	-	40	夜間主コース	0	-	0	令和6年4月学生募集停止
経営法学科				経営法学科				
昼間主コース	92	2	372	昼間主コース	0	0	0	令和6年4月学生募集停止
夜間主コース	10	-	40	夜間主コース	0	-	0	令和6年4月学生募集停止
理学部				理学部				
数学科	45	-	180	理学科	208	3年次 4	840	学科の設置(届出)
物理学科	40	1	162	数学科	0	0	0	令和6年4月学生募集停止
化学科	35	1	142	物理学科	0	0	0	令和6年4月学生募集停止
生物学科	38	1	154	化学科	0	0	0	令和6年4月学生募集停止
自然環境科学科	35	1	142	生物学科	0	0	0	令和6年4月学生募集停止
				自然環境科学科	0	0	0	令和6年4月学生募集停止
医学部				医学部				
医学科(6年制)	105	2年次 5	605	医学科(6年制)	105	2年次 5	605	
看護学科	80	3年次 10	340	看護学科	80	3年次 10	340	
薬学部				薬学部				
薬学科(6年制)	70	-	420	薬学科(6年制)	70	-	420	
創薬科学科	35	-	140	創薬科学科	35	-	140	
工学部				工学部				
工学科	380	3年次 17	1,554	工学科	395	3年次 17	1,614	定員変更(15)
芸術文化学部 芸術文化学科				芸術文化学部 芸術文化学科				
芸術文化学科	110	-	440	芸術文化学科	110	-	440	
都市デザイン学部				都市デザイン学部				
地球システム科学科	40	-	160	地球システム科学科	40	-	160	
都市・交通デザイン学科	54	1	218	都市・交通デザイン学科	54	1	218	
材料デザイン工学科	65	2	264	材料デザイン工学科	65	2	264	
計	1,770	56	7,507	計	1,770	56	7,507	
富山大学大学院				富山大学大学院				
人文社会芸術総合研究科				人文社会芸術総合研究科				
人文社会芸術総合専攻(M)	46	-	92	人文社会芸術総合専攻(M)	46	-	92	
(うち、人文社会芸術総合専攻から持続可能社会創成学環の内数とする入学定員数及び収容定員数) ※1	(8)	-	(16)	(うち、人文社会芸術総合専攻から持続可能社会創成学環の内数とする入学定員数及び収容定員数) ※1	(8)	-	(16)	
総合医薬学研究科				総合医薬学研究科				
総合医薬学専攻(M)	66	-	132	総合医薬学専攻(M)	66	-	132	
(うち、総合医薬学専攻から医薬理工学環の内数とする入学定員数及び収容定員数) ※2	(8)	-	(16)	(うち、総合医薬学専攻から医薬理工学環の内数とする入学定員数及び収容定員数) ※2	(8)	-	(16)	
理工学研究科				総合医薬学専攻(D)	50	-	184	課程の変更(届出)
理工学専攻(M)	288	-	576	(うち、総合医薬学専攻から医薬理工学環の内数とする入学定員数及び収容定員数) ※2	(7)	-	(21)	
(うち、理工学専攻から持続可能社会創成学環の内数とする入学定員数及び収容定員数) ※1	(10)	-	(20)	理工学研究科				
(うち、理工学専攻から医薬理工学環の内数とする入学定員数及び収容定員数) ※2	(29)	-	(58)	理工学専攻(M)	312	-	624	定員変更(24)
				(うち、理工学専攻から持続可能社会創成学環の内数とする入学定員数及び収容定員数) ※1	(10)	-	(20)	
				(うち、理工学専攻から医薬理工学環の内数とする入学定員数及び収容定員数) ※2	(29)	-	(58)	
持続可能社会創成学環(M) ※1	(18)	-	(36)	理工学専攻(D)	29	-	87	課程の変更(届出)
医薬理工学環(M) ※2	(37)	-	(74)	(うち、理工学専攻から医薬理工学環の内数とする入学定員数及び収容定員数) ※2	(5)	-	(15)	
				持続可能社会創成学環(M) ※1	(18)	-	(36)	
				医薬理工学環(M) ※2	(37)	-	(74)	
				医薬理工学環(D) ※2	(12)	-	(36)	研究科等連携課程実施基本組織の設置(届出)
生命融合科学教育部				生命融合科学教育部				
認知・情動脳科学専攻(4年制D)	9	-	36	認知・情動脳科学専攻(4年制D)	0	-	0	令和6年4月学生募集停止
生体情報システム科学専攻(D)	4	-	12	生体情報システム科学専攻(D)	0	-	0	令和6年4月学生募集停止
先端ナノ・バイオ科学専攻(D)	4	-	12	先端ナノ・バイオ科学専攻(D)	0	-	0	令和6年4月学生募集停止
医学薬学教育部				医学薬学教育部				
看護学専攻(D)	3	-	9	看護学専攻(D)	0	-	0	令和6年4月学生募集停止
薬科学専攻(D)	8	-	24	薬科学専攻(D)	0	-	0	令和6年4月学生募集停止
生命・臨床医学専攻(4年制D)	18	-	72	生命・臨床医学専攻(4年制D)	0	-	0	令和6年4月学生募集停止
東西統合医学専攻(4年制D)	7	-	28	東西統合医学専攻(4年制D)	0	-	0	令和6年4月学生募集停止
薬学専攻(4年制D)	4	-	16	薬学専攻(4年制D)	0	-	0	令和6年4月学生募集停止
理工学教育部				理工学教育部				
数理・ヒューマンシステム科学専攻(D)	5	-	15	数理・ヒューマンシステム科学専攻(D)	0	-	0	令和6年4月学生募集停止
ナノ新機能物質科学専攻(D)	4	-	12	ナノ新機能物質科学専攻(D)	0	-	0	令和6年4月学生募集停止
新エネルギー科学専攻(D)	3	-	9	新エネルギー科学専攻(D)	0	-	0	令和6年4月学生募集停止
地球生命環境科学専攻(D)	4	-	12	地球生命環境科学専攻(D)	0	-	0	令和6年4月学生募集停止
教職実践開発研究科				教職実践開発研究科				
教職実践開発専攻(P)	14	-	28	教職実践開発専攻(P)	14	-	28	
計	487	-	1,085	計	517	-	1,147	
※1 持続可能社会創成学環(M)の入学定員及び収容定員は、人文社会芸術総合専攻(M)及び理工学専攻(M)の内数とする。				※1 持続可能社会創成学環(M)の入学定員及び収容定員は、人文社会芸術総合専攻(M)及び理工学専攻(M)の内数とする。				
※2 医薬理工学環(M)の入学定員及び収容定員は、総合医薬学専攻(M)及び理工学専攻(M)の内数とする。				※2 医薬理工学環(M)(D)の入学定員及び収容定員は、総合医薬学専攻(M)(D)及び理工学専攻(M)(D)の内数とする。				

教育課程等の概要

(大学院医薬理工学環 博士後期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院 共通科目	学際融合発表演習Ⅰ	1③	1				○		40	20	4	3		共同(一部)・ メディア 共同(一部)・ メディア	
	学際融合発表演習Ⅱ	2③	1				○		40	20	4	3			
	小計(2科目)	—	2	0	0		—		40	20	4	3	0	0	
学環 共通科目	先端研究企画演習	1②		1			○		40	15					
	研究インターンシップ	1・2・3通		1				○	1						
	国際連携実習	1・2・3通		1				○	1						
	日本語・日本文化	1・2・3・① ②③④			4	○								兼1	
	小計(4科目)	—	0	3	4		—		40	15	0	0	0	兼1	—
創薬・製剤工 学	創薬・製剤工学特論	1②		1		○			11	8	1				
	創薬・製剤工学特別演習	3①～3②	2				○		11	7	1				
	創薬・製剤工学特別実習	2③・2④		1				○	11	7	1				
	創薬・製剤工学特別研究	1～3通	10					○	11	7	1				
	小計(4科目)	—	12	2	0		—		11	8	1	0	0	0	—
応用和漢医 薬学	国際応用和漢医薬学特論	1④		1		○			11	5	1				
	応用和漢医薬学特別演習	3①～3②	2				○		11	5	1				
	応用和漢医薬学特別実習	2③・2④		1				○	11	5	1				
	応用和漢医薬学特別研究	1～3通	10					○	11	5	1				
	小計(4科目)	—	12	2	0		—		11	5	1	0	0	0	—
認知・情動 脳科学	認知・情動脳科学特論	1①		1		○			13	6	3	3			
	認知・情動脳科学特別演習	3①～3②	2				○		13	5	2	3			
	認知・情動脳科学特別実習	2①		1				○	13	5	2	3			
	認知・情動脳科学特別研究	1～3通	10					○	13	5	2	3			
	小計(4科目)	—	12	2	0		—		13	6	3	3	0	0	—
メディカル デザイン プログラム	メディカルデザイン・アントレプレナーシップ特論	1①		1		○			1					兼5 オムニバス ・メディア	
	医療制度と医療経営特論	1①	1			○									
	生体運動制御特論	1③		1		○				1					
	医用光工学特論	1①		1		○			1						
	臨床情報医学特論	1③		1		○				1					
	医用情報計測学特論	1③		1		○			1						
	医用超音波計測学特論	1②		1		○				1					
	生体情報処理特論	1④		1		○			1						
	人間情報インタラクション特論	1②		1		○			1						
	応用計測システム特論	1③		1		○			1						
	画像計測システム特論	1③		1		○				1					
	生物流体力学特論	1②		1		○					1				
	脳・神経システムダイナミクス特論	1①		1		○			1						
	材料塑性加工学特論	1④		1		○			1						
	循環動態生理特論	1①		1		○			1						
	泌尿器腫瘍学特論	1③		1		○			1						
	血液腫瘍学特論	1③		1		○			1						
	メディカルデザイン特別演習	3①～3②	1				○		10	4	1				
	メディカルデザイン特別研究	1～3通	10					○	10	4	1				
小計(19科目)	—	12	16	0		—		10	4	1	0	0	兼5	—	
合計(37科目)		—	50	25	4		—		40	22	5	3	0	兼6	—

学位又は称号	博士（薬科学） 博士（神経科学） 博士（医工学）	学位又は学科の分野	医学関係 薬学関係 理学関係 工学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
<p>(創薬・製剤工学プログラム) 大学院共通科目から必修科目2単位、学環共通科目から「先端研究企画演習」1単位、創薬・製剤工学プログラム専門科目から必修科目12単位、学環共通科目及び創薬・製剤工学プログラム専門科目から1単位以上を修得し、合計16単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。</p> <p>(応用和漢医薬学プログラム) 大学院共通科目から必修科目2単位、学環共通科目から「先端研究企画演習」1単位、応用和漢医薬学プログラム専門科目から必修科目12単位、学環共通科目及び応用和漢医薬学プログラム専門科目から1単位以上を修得し、合計16単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。</p> <p>(認知・情動脳科学プログラム) 大学院共通科目から必修科目2単位、学環共通科目から「先端研究企画演習」1単位、認知・情動脳科学プログラム専門科目から必修科目12単位、学環共通科目及び認知・情動脳科学プログラム専門科目から1単位以上を修得し、合計16単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。</p> <p>(メディカルデザインプログラム) 大学院共通科目から必修科目2単位、メディカルデザインプログラム専門科目から必修科目12単位、学環共通科目から1単位、学環共通科目及びメディカルデザインプログラム専門科目から1単位以上を修得し、合計16単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。</p>			1学年の学期区分	4学期
			1学期の授業期間	8週
			1時限の授業時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要

(大学院医薬理工学環 博士後期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通大学院科目	学際融合発表演習Ⅰ	1③	1				○		40	20	4	3			共同(一部)・メディア
	学際融合発表演習Ⅱ	2③	1				○		40	20	4	3			
	小計(2科目)	—	2	0	0		—		40	20	4	3	0	0	
学環共通科目	先端研究企画演習	1②		1			○		40	15					
	研究インターンシップ	1・2・3通		1				○	1						
	国際連携実習	1・2・3通		1				○	1						
	小計(3科目)	—	0	3	0		—		40	15	0	0	0	0	—
創薬・製剤工学	創薬・製剤工学特論	1②		1		○			11	8	1				
	創薬・製剤工学特別演習	3①～3②	2				○		11	7	1				
	創薬・製剤工学特別実習	2③・2④		1				○	11	7	1				
	創薬・製剤工学特別研究	1～3通	10					○	11	7	1				
	小計(4科目)	—	12	2	0		—		11	8	1	0	0	0	—
応用和漢医薬学	国際応用和漢医薬学特論	1④		1		○			11	5	1				
	応用和漢医薬学特別演習	3①～3②	2				○		11	5	1				
	応用和漢医薬学特別実習	2③・2④		1				○	11	5	1				
	応用和漢医薬学特別研究	1～3通	10					○	11	5	1				
	小計(4科目)	—	12	2	0		—		11	5	1	0	0	0	—
認知・情動脳科学	認知・情動脳科学特論	1①		1		○			13	6	3	3			
	認知・情動脳科学特別演習	3①～3②	2				○		13	5	2	3			
	認知・情動脳科学特別実習	2①		1				○	13	5	2	3			
	認知・情動脳科学特別研究	1～3通	10					○	13	5	2	3			
	小計(4科目)	—	12	2	0		—		13	6	3	3	0	0	—
メディカルデザインプログラム	メディカルデザイン・アントレプレナーシップ特論	1①		1		○			1						兼5 オムニバス・メディア
	医療制度と医療経営特論	1①	1			○									
	生体運動制御特論	1③		1		○				1					
	医用光工学特論	1①		1		○			1						
	臨床情報医学特論	1③		1		○				1					
	医用情報計測学特論	1③		1		○			1						
	医用超音波計測学特論	1②		1		○				1					
	生体情報処理特論	1④		1		○			1						
	人間情報インタラクション特論	1②		1		○			1						
	応用計測システム特論	1③		1		○			1						
	画像計測システム特論	1③		1		○				1					
	生物流体力学特論	1②		1		○					1				
	脳・神経システムダイナミクス特論	1①		1		○			1						
	材料塑性加工学特論	1④		1		○			1						
	メディカルデザイン特別演習	3①～3②	1				○		10	4	1				
	メディカルデザイン特別研究	1～3通	10					○	10	4	1				
小計(16科目)	—	12	13	0		—		10	4	1	0	0	兼5	—	
合計(33科目)	—	50	22	0		—		40	22	5	3	0	兼5	—	

学位又は称号	博士（薬科学） 博士（神経科学） 博士（医工学）	学位又は学科の分野	医学関係 薬学関係 理学関係 工学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
<p>(創薬・製剤工学プログラム) 大学院共通科目から必修科目2単位、学環共通科目から「先端研究企画演習」1単位、創薬・製剤工学プログラム専門科目から必修科目12単位、学環共通科目及び創薬・製剤工学プログラム専門科目から1単位以上を修得し、合計16単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。</p> <p>(応用和漢医薬学プログラム) 大学院共通科目から必修科目2単位、学環共通科目から「先端研究企画演習」1単位、応用和漢医薬学プログラム専門科目から必修科目12単位、学環共通科目及び応用和漢医薬学プログラム専門科目から1単位以上を修得し、合計16単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。</p> <p>(認知・情動脳科学プログラム) 大学院共通科目から必修科目2単位、学環共通科目から「先端研究企画演習」1単位、認知・情動脳科学プログラム専門科目から必修科目12単位、学環共通科目及び認知・情動脳科学プログラム専門科目から1単位以上を修得し、合計16単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。</p> <p>(メディカルデザインプログラム) 大学院共通科目から必修科目2単位、メディカルデザインプログラム専門科目から必修科目12単位、学環共通科目から1単位、学環共通科目及びメディカルデザインプログラム専門科目から1単位以上を修得し、合計16単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。</p>			1学年の学期区分	4 学期
			1学期の授業期間	8 週
			1時限の授業時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要

(大学院医薬理工学環 博士後期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通大学院科目	学際融合発表演習Ⅰ	1③	1					○			40	20	4	3		共同(一部)・メディア
	学際融合発表演習Ⅱ	2③	1					○			40	20	4	3		
	小計(2科目)	—	2	0	0			—			40	20	4	3	0	0
学環共通科目	先端研究企画演習	1②		1					○		40	15				
	研究インターンシップ	1・2・3通		1						○	1					
	国際連携実習	1・2・3通		1						○	1					
	日本語・日本文化	1・2・3・①②③④			4			○								兼1
	小計(4科目)	—	0	3	4			—			40	15	0	0	0	兼1
創薬・製剤工学	創薬・製剤工学特論	1②		1				○			11	8	1			
	創薬・製剤工学特別演習	3①～3②	2						○		11	7	1			
	創薬・製剤工学特別実習	2③・2④		1						○	11	7	1			
	創薬・製剤工学特別研究	1～3通	10							○	11	7	1			
	小計(4科目)	—	12	2	0			—			11	8	1	0	0	0
応用和漢医薬学	国際応用和漢医薬学特論	1④		1				○			11	5	1			
	応用和漢医薬学特別演習	3①～3②	2						○		11	5	1			
	応用和漢医薬学特別実習	2③・2④		1						○	11	5	1			
	応用和漢医薬学特別研究	1～3通	10							○	11	5	1			
	小計(4科目)	—	12	2	0			—			11	5	1	0	0	0
認知・情動脳科学	認知・情動脳科学特論	1①		1				○			13	6	3	3		
	認知・情動脳科学特別演習	3①～3②	2						○		13	5	2	3		
	認知・情動脳科学特別実習	2①		1						○	13	5	2	3		
	認知・情動脳科学特別研究	1～3通	10							○	13	5	2	3		
	小計(4科目)	—	12	2	0			—			13	6	3	3	0	0
医療デザイン	医療制度と医療経営特論	1①	1					○								兼5
	循環動態生理特論	1①		1				○			1					
	泌尿器腫瘍学特論	1③		1				○			1					
	血液腫瘍学特論	1③		1				○			1					
	医療デザイン特別演習	3①～3②	1						○		10	4	1			
	医療デザイン特別研究	1～3通	10							○	10	4	1			
	小計(6科目)	—	12	3	0			—			10	4	1	0	0	兼5
合計(24科目)		—	50	12	4			—			40	22	5	3	0	兼6
学位又は称号	博士(薬科学) 博士(神経科学) 博士(医工学)		学位又は学科の分野			医学関係 薬学関係 理学関係 工学関係										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>(創薬・製剤工学プログラム) 大学院共通科目から必修科目2単位、学環共通科目から「先端研究企画演習」1単位、創薬・製剤工学プログラム専門科目から必修科目12単位、学環共通科目及び創薬・製剤工学プログラム専門科目から1単位以上を修得し、合計16単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。</p> <p>(応用和漢医薬学プログラム) 大学院共通科目から必修科目2単位、学環共通科目から「先端研究企画演習」1単位、応用和漢医薬学プログラム専門科目から必修科目12単位、学環共通科目及び応用和漢医薬学プログラム専門科目から1単位以上を修得し、合計16単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。</p> <p>(認知・情動脳科学プログラム) 大学院共通科目から必修科目2単位、学環共通科目から「先端研究企画演習」1単位、認知・情動脳科学プログラム専門科目から必修科目12単位、学環共通科目及び認知・情動脳科学プログラム専門科目から1単位以上を修得し、合計16単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。</p> <p>(メディカルデザインプログラム) 大学院共通科目から必修科目2単位、メディカルデザインプログラム専門科目から必修科目12単位、学環共通科目から1単位、学環共通科目及びメディカルデザインプログラム専門科目から1単位以上を修得し、合計16単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。</p>	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分

教 育 課 程 等 の 概 要

(大学院総合医薬学研究科 総合医薬学専攻 博士課程・博士後期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院 共通科目	研究倫理	1①・1③		1		○									兼3	オムニバス・メディア
	科学技術と持続可能社会	1①・1③		1		○									兼7	オムニバス・メディア オムニバス・メディア・共同(一部)
	地域共生社会特論	1②		1		○									兼1	
	研究者としてのコミュニケーション:基礎と応用	1②		1		○			2						兼4	オムニバス・メディア
	アート・デザイン思考	1②・1④		1		○									兼6	オムニバス・メディア オムニバス・メディア・共同(一部)
	英語論文作成 I	1①・1③		1		○									兼2	共同(一部)
	英語論文作成 II	1②・1④		1		○									兼2	共同(一部)
	データサイエンス特論	1①・1③		1		○			1						兼5	オムニバス・メディア オムニバス・メディア・共同(一部)
	大学院生のためのキャリア形成	1①・1③		1		○									兼1	オムニバス・メディア オムニバス・メディア・共同(一部)
	知的財産法	1②・1④		1		○									兼3	オムニバス・メディア オムニバス・メディア・共同(一部)
	学際融合発表演習 I	1③	1				○		54	35	9	14				共同(一部)・メディア
	学際融合発表演習 II	2③	1				○		54	35	9	14				共同(一部)・メディア
小計(12科目)	—	2	10	0	—	—	—	54	35	9	14	0	兼29	—		
目 研究科 共通科	医薬学プロフェッショナル研究論	1①・1③	1			○			7						兼3	オムニバス・メディア
	医療制度と医療経営特論	1①	1			○			2						兼3	オムニバス・メディア
	日本語・日本文化	1・2・3・①②③④			4	○									兼1	
	小計(3科目)	—	2	0	4	—	—	8	0	0	0	0	兼4	—		
看 護 科 学 ブ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	医学連携特論	1①・1③		1		○			2							オムニバス・メディア
	看護科学特論	1②・1④		1		○			1							オムニバス・メディア
	基礎看護科学分野															
	基礎看護科学特論	1③～1④	2			○			1	2						
	基礎看護科学演習	2通	4				○		1							
	臨床・生体機能看護科学分野															
	臨床・生体機能看護科学特論	1③～1④	2			○			1	3						
	臨床・生体機能看護科学演習	2通	4				○		1							
	地域ケアシステム看護科学分野															
	地域ケアシステム看護科学特論	1③～1④	2			○			1		1					
地域ケアシステム看護科学演習	2通	4				○		1		1						
看護科学特別研究	1～3通	10					○	3	5	1						
小計(9科目)	—	10	20	0	—	—	—	4	5	1	0	0	0	—		
グ ラ ム 先 端 薬 学 専 門 科 目 ブ ロ グ ラ ム	先端薬科学特別実習	2③・2④		1				○	1							
	薬学連携特論	1②	1			○			8							オムニバス
	先端薬科学インターンシップ	1・2・3通	1					○	1							集中
	先端薬科学特別演習	3①～3②	2				○		19	15	2					
	先端薬科学特別研究	1～3通	10					○	19	15	2					
小計(5科目)	—	13	2	0	—	—	—	19	15	2	0	0	0	—		
専 命 科 目 生 命 科 目 臨 床 医 学 ブ ロ グ ラ ム	先進医学特論	1～4通		1		○			1							
	医学連携特論	1①・1③		1		○			2							オムニバス・メディア
	解剖学・神経科学特論	1③～④	2			○			1			1				
	統合神経科学特論	1①～②	2			○				1						
	分子脳科学特論	1③～④	2			○			1	1		1				
	システム機能形態学特論	1③～④	2			○			1							
	病理診断学特論	1①～②	2			○			1							
	分子神経形態学特論	1①～②	2			○					1					
分子免疫学特論	1①～②	2			○					1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
生命・臨床医学プログラム専門科目	微生物学特論	1③～④		2		○			1						
	分子医科薬理学特論	1①～②		2		○			1				2		
	疫学・健康政策学特論	1③～④		2		○			1	1			1		
	公衆衛生学特論	1①～②		2		○					1				
	法医学特論	1①～②		2		○			1	1					
	医学教育学特論	1①～②		2		○			1						
	システム情動科学特論	1①～②		2		○			1				2		
	分子神経科学特論	1①～②		2		○				1					
	臨床心理学・認知神経科学特論	1③～④		2		○			1						
	遺伝子発現制御学特論	1③～④		2		○				1					
	代謝・免疫・呼吸器病学特論	1①～②		2		○				1					
	循環器・腎臓内科学特論	1①～②		2		○			1						
	消化器内科学特論	1③～④		2		○			1	1					
	感染症学特論	1③～④		2		○			1	1			1		
	皮膚科学特論	1①～②		2		○				1					
	小児発達医学特論	1①～②		2		○					1				
	神経精神医学特論	1①～②		2		○				1	2		1		
	放射線診断治療学特論	1①～②		2		○				1					
	放射線腫瘍学特論	1①～②		2		○			1						
	循環・呼吸器・総合外科学特論	1①～②		2		○			1	1					
	呼吸器外科学特論	1③～④		2		○			2						
	消化器・腫瘍・総合外科学特論	1③～④		2		○			1		1				
	脳神経外科学特論	1③～④		2		○					1				
	整形外科・運動器病学特論	1①～②		2		○			1	1					
	産科婦人科学特論	1③～④		2		○			1	1					
	眼科学特論	1①～②		2		○			1						
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学特論	1①～②		2		○					1				
	腎泌尿器科学特論	1③～④		2		○			1						
	麻酔・周術期管理学特論	1①～②		2		○					1				
	総合口腔科学特論	1③～④		2		○				1					
	臨床分子病態検査学特論	1①～②		2		○				1					
	和漢診療学特論	1①～②		2		○			1						
	救急医学特論	1③～④		2		○			1						
	血液内科学特論	1③～④		2		○			1						
	脳神経内科学特論	1③～④		2		○				1					
	臨床腫瘍学特論	1③～④		2		○			1				1		
	医療安全学特論	1①～②		2		○				1					
	形成再建外科学・美容外科学特論	1①～②		2		○			1		1				
	計算創薬・数理医学特論	1③～④		2		○			1				1		
	リハビリテーション医学特論	1③～④		2		○			1				1		
	先端医療研究開発学特論	1③～④		2		○			1						
行動生理学特論	1①～②		2		○			1							
高度医学がん治療学特論Ⅰ	1・2・3通		1		○			1						メディア	
高度医学がん治療学特論Ⅱ	1・2・3通		1		○			1						メディア	
高度医学がん治療学特論Ⅲ	1・2・3通		1		○			1						メディア	
高度医学がん治療学特論Ⅳ	1・2・3通		1		○			1						メディア	
高度医学がん治療学特論Ⅴ	1・2・3通		1		○			1						メディア	
高度医学がん治療学特論Ⅵ	1・2・3通		1		○			1						メディア	
生命・臨床医学特論	1～4通		6		○			31	15	6		14			
生命・臨床医学特別実習	1～4通		2					○	32	15	6	14			
生命・臨床医学特別研究	1～4通		10					○	32	15	6	14			
小計(60科目)		—	18	106	0		—	32	22	11	14	0	0	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
臨床薬学プログラム専門科目	高度薬物がん治療学特論Ⅰ	1・2通		1		○			1						メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅱ	1・2通		1		○			1						メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅲ	1・2通		1		○			1						メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅳ	1・2通		1		○			1						メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅴ	1・2通		1		○			1						メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅵ	1・2通		1		○			1						メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅶ	1・2通		1		○			1						メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅷ	1・2通		1		○			1						メディア
	薬学連携特論	1②	1			○			8						オムニバス
	臨床薬学特論	1①～3②	6			○			19	15	2				
	臨床薬学特別演習	4①～4②	2				○		19	15	2				
	臨床薬学特別実習	2③・2④		1				○	19	15	2				
	臨床薬学インターンシップ	1・2・3通		1				○	1						集中
	臨床薬学特別研究	1～4通	10					○	19	15	2				
小計(14科目)	—	—	19	10	0	—	—	—	19	15	2	0	0	0	—
合計(103科目)		—	64	148	4	—	—	—	55	42	14	14	0	0	兼38
学位又は称号	博士(看護学) 博士(薬科学) 博士(薬学) 博士(医学)	学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係), 薬学関係, 医学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
<p>【看護科学プログラム】 大学院共通科目から必修科目2単位を含む3単位以上(ただし博士前期課程において単位修得済の科目は除く。), 研究科共通科目から必修科目2単位, 看護科学プログラム専門科目から必修科目10単位, 及び看護科学プログラム専門科目の選択科目から「医学連携特論」又は「看護科学特論」から1科目1単位選択必修及び選択した分野の特論科目2単位及び演習科目4単位, 合計22単位以上修得し, かつ, 必要な研究指導を受けた上, 論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。</p> <p>【先端薬科学プログラム】 大学院共通科目から必修科目2単位, 研究科共通科目から必修科目2単位, 先端薬科学プログラム専門科目から必修科目13単位, 先端薬科学プログラム専門科目の選択科目及び博士前期課程先端薬科学プログラムのプログラム専門科目(序論及び特論)(ただし博士前期課程において単位未修得の科目に限る。)から1単位以上を修得し, 合計18単位以上修得し, かつ, 必要な研究指導を受けた上, 論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。</p> <p>【生命・臨床医学プログラム】 大学院共通科目から必修科目2単位, 「研究倫理」1単位及び「科学技術と持続可能社会」1単位, 研究科共通科目から必修科目2単位, 生命・臨床医学プログラム専門科目から必修科目18単位, 生命・臨床医学プログラム専門科目の選択科目から4単位以上, 大学院共通科目及び生命・臨床医学プログラム専門科目の選択科目から2単位以上を修得し, 合計30単位以上修得し, かつ, 必要な研究指導を受けた上, 論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。</p> <p>【臨床薬学プログラム】 大学院共通科目から必修科目2単位, 「研究倫理」1単位及び「科学技術と持続可能社会」1単位, 研究科共通科目から必修科目2単位, 臨床薬学プログラム専門科目から必修科目19単位, 大学院共通科目, 臨床薬学プログラム専門科目, 博士前期課程先端薬科学プログラムのプログラム専門科目(序論及び特論)から5単位以上を修得し, 合計30単位以上修得し, かつ, 必要な研究指導を受けた上, 論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。</p>						1学年の学期区分		4学期							
						1学期の授業期間		8週							
						1時限の授業時間		90分							

教 育 課 程 等 の 概 要

(大学院理工学研究科 理工学専攻 博士後期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通大学院科目	学際融合発表演習Ⅰ	1③	1				○		69	46	5	4			※講義・メディア
	学際融合発表演習Ⅱ	2③	1				○		69	46	5	4			※講義・メディア
	小計(2科目)	—	2	0	0	—			69	46	5	4	0	0	—
共通研究科目	異分野研究体験	1・2①・②		1		※	○	※	69	58	17	17			※講義、実験
	ブレFD	1・2①・②		1		※	○		69	58	17	17			※講義
	長期インターンシップ	1・2①・②		1				○	69	58	17	17			
	小計(3科目)	—	0	3	0	—			69	58	17	17	0	0	—
プログラム専門科目	医用光工学特論	1・2①～②		2		○			1						
	生体情報処理特論	1・2①～②		2		○			1						
	量子情報処理特論	1・2①～②		2		○			1						
	認知インタラクション特論	1・2①～②		2		○			1						
	医用超音波工学特論	1・2①～②		2		○			1						
	信号処理特論	1・2①～②		2		○			1						
	臨床情報医学特論	1・2①～②		2		○				1					
	計算知能特論	1・2①～②		2		○			1						
	感性情報工学特論	1・2①～②		2		○				1					
	医用超音波計測学特論	1・2①～②		2		○				1					
	機械学習特論	1・2①～②		2		○				1					
	計算科学特論	1・2①～②		2		○				1					
	計算数理特論	1・2①～②		2		○			1						
	確率過程特論	1・2①～②		2		○			1						
	幾何学特論	1・2①～②		2		○			1						
	複素解析学特論	1・2①～②		2		○			1						
	表現論特論	1・2①～②		2		○			1						
	現象数理学特論	1・2①～②		2		○				1					
	空間構造論	1・2①～②		2		○				1					
	数論特論	1・2①～②		2		○				1					
	数理解現象解析特論	1・2①～②		2		○				1					
	数理情報学・データサイエンスプログラム特別演習	1～3通		4				○	12	6					
	数理情報学・データサイエンスプログラム特別研究	1～3通		10				○	12	6					
小計(23科目)	—	—	14	42	0	—			12	9	0	0	0	0	—
生命・物質・エネルギー科学プログラム専門科目	不規則系物理学特論	1②		2		○			1						
	低温・凝縮特論	1・2①～②		2		○			1						
	電波物理学特論	1・2①～②		2		○			1						
	原子分子物理学特論	1①		2		○			1						
	量子エレクトロニクス特論	1①		2		○			1						
	分子分光特論	1・2①～②		2		○				1					
	相対論的宇宙物理学特論	1・2①～②		2		○				1					
	低温物理学特論	1・2①～②		2		○				1					
	プラズマ宇宙物理学特論	1・2①～②		2		○				1					
	放射光分光理論特論	1・2①～②		2		○				1					
	重力波物理学特論	1・2①～②		2		○				1					
	多価イオン物理学特論	1・2①～②		2		○					1				
	素粒子的宇宙論特論	1・2①～②		2		○						1			
	物性物理学特論	1・2①～②		2		○						1			
	有機電子デバイス特論	1・2①～②		2		○			1						
	強誘電体デバイス特論	1・2①～②		2		○				1					
	電波伝搬特論	1・2①～②		2		○				1					
	半導体薄膜工学特論	1・2①～②		2		○			1						
	ナノ材料構造解析特論	1・2①～②		2		○			1						
	材料強度学特論	1・2③～④		2		○				1					
材料輸送特性学特論	1・2①～②		2		○				1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
プログラム専門科目	生命・物質・エネルギー科学プログラム	1・2①～②		2		○			1							
	材料精製工学特論	1・2①～②		2		○			1							
	光機能材料工学特論	1・2①～②		2		○			1							
	先端計算材料学特論	1・2①～②		2		○			1							
	水素エネルギー材料学特論	1・2①～②		2		○			1							
	生体分子システム科学特論	1①		1		○			1							
	錯体合成化学特論	1・2①～②		2		○			1							
	有機ナノ科学特論	1・2①～②		2		○			1							
	錯体機能化学特論	1・2①～②		2		○				1						
	構造溶液化学特論	1・2①～②		2		○				1						
	光機能材料化学特論	1・2①～②		2		○					1					
	錯体光化学特論	1・2①～②		2		○					1					
	進化分子工学特論	1②		1		○					1					
	天然物合成化学特論	1・2①～②		2		○					1					
	エネルギー変換工学特論	1・2①～②		2		○				1						
	有機典型元素化学特論	1・2①～②		2		○						1				
	物質変換化学特論	1・2①～②		2		○						1				
	無機材料物性制御工学特論	1・2①～②		2		○							1			
	脳・神経システムダイナミクス特論	1①		1		○				1						
	抗体工学特論	1①		1		○				1						
	タンパク質代謝学特論	1①～②		2		○					1					
	プロセス解析特論	1②		1		○					1					
	薬理学・遺伝子工学特論	1③～④		2		○					1					
	生体医工学特論	1①～②		2		○							1			
	医薬品合成化学特論	1③～④		2		○							1			
	合成細胞生物学特論	1①～②		2		○							1			
	生体誘電体現象特論	1①		1		○						1				
	微生物反応工学特論	1①～②		2		○							1			
	機能分子合成化学特論	2①～②		2		○				1						
	微量元素分離科学特論	1③～④		2		○				1						
	触媒反応工学特論	1①～②		2		○				1						
	生体分子シミュレーション特論	1③～④		2		○					1					
	生体界面科学特論	2③～④		2		○					1					
生物機能工学特論	1・2①～②		2		○					1						
ナノ・バイオマテリアル設計学特論	1①～②		2		○					1						
分子固体物性特論	1③～④		2		○					1						
生体分析化学特論	1①～②		2		○							1				
化学・環境プロセス特論	2①～②		2		○							1				
核融合材料学特論	2②		2		○				1							
放射線計測学特論	1①		2		○					1						
生命・物質・エネルギー科学プログラム特別演習	1～3通		4				○		21	17	2	2				
生命・物質・エネルギー科学プログラム特別研究	1～3通		10				○		21	17	2	2				
小計 (62科目)	—		14	114	0	—	—	—	21	22	7	10	0	0	—	
プログラム専門科目	大気放射学特論	1・2①～②		2		○			1							
	古地磁気学・岩石磁気学特論	1・2①～②		2		○			1							
	火山学特論	1・2③～④		2		○			1							
	地史・古生物学特論	1・2③～④		2		○			1							
	地球雪氷学特論	1③～④		2		○			1							
	海洋気候科学特論	1・2①～②		2		○			1							
	リモートセンシング学特論	1・2③～④		2		○			1							
	気候力学特論	1・2③～④		2		○			1							
	固体地球物理学特論	1③～④		2		○			1							
	地層学特論	1①～②		2		○				1						
	資源環境物理学特論	1③～④		2		○				1						
	雪氷科学特論	1③～④		2		○				1						
	大気物理学特論	1・2①～②		2		○				1						
地震地質学特論	1・2③～④		2		○				1							

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
プログラム 専門科目	植物生態学特論	1①～②		2		○			1							
	植物形態学特論	2③～④		2		○			1							
	微生物学特論	1・2③～④		2		○			1							
	生体分子生化学特論	2③～④		2		○			1							
	睡眠科学特論	2①～②		2		○			1							
	保全生態学特論	1・2③～④		2		○			1							
	植物生理学特論	1①～②		2		○				1						
	共生生物学特論	2③～④		2		○				1						
	進化発生学特論	2③～④		2		○				1						
	進化生態学特論	2③～④		2		○				1						
	生物時計学特論	2①～②		2		○				1						
	内分泌学特論	2①～②		2		○					1					
	環境分子生物学特論	1・2①～②		2		○					1					
	行動生理学特論	2①～②		2		○					1					
	植物分子遺伝学特論	2③～④		2		○						1				
	植物細胞分類学特論	2①～②		2		○							1			
	植物細胞生物学特論	2③～④		2		○							1			
	昆虫神経行動学特論	2①～②		2		○							1			
	環境水計測化学特論	1・2①～②		2		○			1							
	海洋地球化学特論	1・2①～②		2		○			1							
環境同位体学特論	1・2①～②		2		○			1								
同位体生態学特論	1・2①～②		2		○						1					
固体地球化学特論	1・2①～②		2		○						1					
環境水質特論	1・2①～②		2		○						1					
サステイナブル地球環境学プログラム特別演習	1～3通		4				○		18	9	3	2				
サステイナブル地球環境学プログラム特別研究	1～3通		10				○		18	9	3	2				
小計 (40科目)	—		14	76	0	—			18	10	4	6	0	0	—	
先進工学 プログラム 専門科目	高電圧・大電流工学特論	1・2③～④		2		○			1							
	電磁応用工学特論	1・2①～②		2		○			1							
	有機デバイス特論	1・2③～④		2		○			1							
	生体計測工学特論	1・2③～④		2		○			1							
	分散・協調制御特論	1・2③～④		2		○			1							
	電力変換工学特論	1・2①～②		2		○				1						
	強誘電体デバイス特論	1・2③～④		2		○				1						
	生体運動制御特論	1・2③～④		2		○				1						
	超高周波工学特論	1・2③～④		2		○				1						
	FDTD解析特論	1・2①～②		2		○				1						
	電波伝搬特論	1・2①～②		2		○				1						
	半導体薄膜工学特論	1・2③～④		2		○			1							
	有機薄膜工学特論	1・2③～④		2		○				1						
	神経系情報工学特論	1・2①～②		2		○					1					
	乱流輸送特論	1・2①～②		2		○			1							
	環境強度設計学特論	1・2①～②		2		○			1							
	固体力学特論	1・2①～②		2		○			1							
	応用センシング工学特論	1・2①～②		2		○			1							
	塑性加工特論	1・2①～②		2		○			1							
	熱流体数値解析特論	1・2①～②		2		○			1							
	知能システム特論	1・2③～④		2		○			1							
	先進機能材料学特論	1・2③～④		2		○				1						
	画像計測システム特論	1・2③～④		2		○				1						
非線形構造解析特論	1・2③～④		2		○				1							
破壊力学特論	1・2③～④		2		○				1							
適応システム特論	1・2③～④		2		○				1							
生物流体力学特論	1・2①～②		2		○					1						
ロボット運動力学制御特論	1・2①～②		2		○					1						
ナノ力学特論	1・2①～②		2		○					1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
プログラム専門科目	先進工学プログラム 微細加工特論	1・2①～②		2		○					1				
	応用流体工学特論	1・2③～④		2		○					1				
	材料塑性加工学特論	1・2①～②		2		○			1						
	先端素形制御工学特論	1・2③～④		2		○			1						
	ナノ材料構造解析特論	1・2①～②		2		○			1						
	材料強度学特論	1・2③～④		2		○				1					
	材料創製工学特論	1・2①～②		2		○					1				
	材料輸送特性学特論	1・2③～④		2		○				1					
	水熱無機材料科学特論	1・2③～④		2		○				1					
	化学組成分析特論	1・2③～④		2		○				1					
	移動現象理論	1・2①～②		2		○				1					
	生体材料学特論	1・2①～②		2		○			1						
	材料精製工学特論	1・2①～②		2		○			1						
	光機能材料工学特論	1・2③～④		2		○			1						
	先端計算材料学特論	1・2①～②		2		○			1						
	画像通信特論	1・2①～②		2		○			1						
	都市空間設計学特論	1・2①～②		2		○			1						
	都市・交通計画学特論	1・2③～④		2		○				1					
	河川水理水工学特論	1・2①～②		2		○			1						
	地盤設計学特論	1・2①～②		2		○			1						
	構造設計・維持管理工学特論	1・2③～④		2		○				1					
橋梁工学特論	1・2③～④		2		○				1						
危機管理学特論	1・2③～④		2		○				1						
先進工学プログラム特別演習	1～3通		4				○	24	18						
先進工学プログラム特別研究	1～3通		10				○	24	18						
小計 (54科目)		—	14	104	0	—			24	21	6	1	0	0	—
合計 (184科目)		—	58	339	0	—			69	58	17	17	0	0	—
学位又は称号	博士 (数理情報学) 博士 (理工学) 博士 (理学) 博士 (工学)	学位又は学科の分野			理学関係、工学関係										
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
修了要件単位数合計20単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。 (内訳) ・大学院共通科目 (必修) 2単位 ・研究科共通科目 (選択) 2単位以上 ・プログラム専門科目 自プログラムの特別研究 (必修) 10単位 自プログラムの特別演習 (必修) 4単位 自プログラム又は他プログラムの特論科目 (選択) 2単位以上							1学年の学期区分		4学期						
							1学期の授業期間		8週						
							1時限の授業時間		90分						

教育課程等の概要															
（大学院医薬理工学環 修士課程）【基礎となる修士課程】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	研究倫理	1①・1③	1			○			1						兼3 オムニバス・メディア
	科学技術と持続可能社会	1①・1③	1			○									兼9 オムニバス・メディア・共同（一部）
	地域共生社会特論	1②		1		○									兼1
	研究者としてのコミュニケーション：基礎と応用	1②		1		○			1						兼5 オムニバス・メディア
	アート・デザイン思考	1②・1④		1		○									兼6 オムニバス・メディア・共同（一部）
	英語論文作成Ⅰ	1①・1③		1		○			1						兼2 共同（一部）
	英語論文作成Ⅱ	1②・1④		1		○			1						兼2 共同（一部）
	データサイエンス特論	1①・1③		1		○			1	2					兼5 オムニバス・メディア・共同（一部）
	大学院生のためのキャリア形成	1①・1③		1		○									兼2 オムニバス・メディア・共同（一部）
	知的財産法	1②・1④		1		○			1						兼2 オムニバス・メディア
小計（10科目）	—	—	2	8	0	—	—	—	4	2	0	0	0	兼33	
医薬理工学環共通科目	生物医学倫理学	1①		1		○									兼1
	理工系生命科学特論	1③		1		○			3	4	1				
	ファーマ・メディカルバイオ序論	1③	1			○			4	1					オムニバス
	創剤学特論	1④		1		○			1	1					集中
	応用和漢医薬学序論	1③		1		○			3	2					オムニバス
	神経解剖生理病態学	1②		1		○			1						
	日本語・日本文化	1・2①②③④			2	○									兼1
小計（7科目）	—	—	1	5	2	—	—	—	11	7	1	0	0	兼2	
創薬・製剤工学プログラム科目	創薬・製剤に関する専門科目	分子化学序論	1③		1		○								兼1
	生物物理学序論	1③		1		○			3						兼3 オムニバス
	薬理薬剤学序論	1②		1		○			3						兼3 オムニバス
	分子細胞生物学序論	1①		1		○			2	1					兼1 オムニバス
	応用天然物化学序論	1③		1		○				2					兼1
	薬理学特論	2①		1		○			2						兼4 オムニバス
	分子細胞生物学特論	2②		1		○			2						兼2 オムニバス
	薬物動態学特論	2①		1		○			1						兼3 オムニバス
	分子生理学特論	1③		1		○			1						兼1

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
創薬・製剤工学プログラム科目	創薬・製剤に関する専門科目	分子設計学特論	1④	1		○			1	1							
		分子化学特論	1④	1		○			1						兼1		
		遺伝子応用分析学特論	2②	1		○			1	2					兼2	オムニバス	
		製剤工学特論	1②	2		○			2	1					兼1	集中・オムニバス	
		医薬製剤産業特論	1①②	2		○			1							集中	
		特別実習	1④	2				○	1								
		薬剤学演習	1～2通	2					○	1							
		生体認識化学演習	1～2通	2					○	1							
		がん細胞生物学演習	1～2通	2					○	1							
		薬化学演習	1～2通	2					○		1						
		薬品製造学演習	1～2通	2					○	1							
		分子細胞機能学演習	1～2通	2					○	1							
		分子合成化学演習	1～2通	2					○	1							
		生体界面化学演習	1～2通	2					○	1							
		構造生物学演習	1～2通	2					○	1							
		薬物生理学演習	1～2通	2					○	1							
		製剤設計学演習	1～2通	2					○	1	1						
		生体機能性分子工学演習	1～2通	2					○	1			1				
		遺伝情報工学演習	1～2通	2					○	1							
		生体機能化学演習	1～2通	2					○	1							
		生体材料設計学演習	1～2通	2					○		1						
		タンパク質代謝学演習	1～2通	2					○		1						
		計算物理化学演習	1～2通	2					○		1						
		生体物質化学演習	1～2通	2					○		1						
		有機合成化学演習	1～2通	2					○	1							
		生体情報薬理学演習	1～2通	2					○		1						
		創薬・製剤特別研究	1～2通	10						○	14	7	1				
		小計 (36科目)	—	—	10	58	0	—	—	—	22	12	1	1	0	兼20	
		臨床医学に関する専門	臨床医学に関する専門	総合医薬学	1①	1		○			2					兼2	オムニバス・メディア・共同 (一部)
				基礎臨床医科学概論	1①	1		○			4					兼10	オムニバス・メディア
				臨床研究の計画法	1・2④	1		○								兼5	オムニバス・共同 (一部)
				小計 (3科目)	—	0	3	0	—	—	—	5	0	0	0	0	兼17

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
創薬・製剤工学プログラム科目	生物学・応用化学に関する専門科目	生命有機化学特論	1・2③	1		○			1				1		集中
	創薬工学特論Ⅰ	2①	1		○			1							
	創薬工学特論Ⅱ	2②	1		○			1							
	生体機能化学Ⅰ	1③	1		○			1							
	生体機能化学Ⅱ	1④	1		○			1							
	生体分子工学特論Ⅰ	1①	1		○					1					
	生体分子工学特論Ⅱ	1②	1		○					1					
	基礎医薬工学特論	1④	2		○			2							
	放射線生物学特論	1・2③	1		○			1							
	薬理学・遺伝子工学特論	1・2④	1		○				1						
	生体材料設計・応用特論	1・2②	1		○				1						
	タンパク質代謝学	2④	1		○				1						
	計算分子科学特論	1③	1		○				1						
	生物機能工学特論	1①	1		○				1						
小計（14科目）	—	0	15		—			5	5	1	1	0			
応用和漢医薬学プログラム科目	和漢薬に関する専門科目	応用和漢医薬学特論	1④	1		○			4	4				オムニバス	
	天然物レギュレーション特論	2①	1		○			2	1					オムニバス	
	応用天然物化学序論	1③	1		○				2					兼1	
	応用天然物化学特論	2②	1		○				2					兼1	
	分子化学序論	1③	1		○			1						兼1	
	生物物理学序論	1③	1		○			3						兼3 オムニバス	
	薬理薬剤学序論	1②	1		○			3						兼3 オムニバス	
	分子細胞生物学序論	1①	1		○			2	1					兼1 オムニバス	
	薬理学特論	2①	1		○			2						兼4 オムニバス	
	分子細胞生物学特論	2②	1		○			2						兼2 オムニバス	
	薬物動態学特論	2①	1		○			1						兼3 オムニバス	
小計（11科目）	—	0	11	0	—			15	6	0	0	0	兼15		
臨床医学に関する専門科目	総合医薬学	1①	1		○			2						兼2 オムニバス・メディア・共同（一部）	
	基礎臨床医科学概論	1①	1		○			4						兼10 オムニバス・メディア	
	臨床研究の計画法	1・2④	1		○									兼5 オムニバス・共同（一部）	
	小計（3科目）	—	0	3	0	—		5	0	0	0	0	兼17		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
応用 和漢 医薬学 プログラム 科目	生命有機化学特論	1・2③		1		○			1				1		
	創薬工学特論Ⅰ	2①		1		○			1						
	創薬工学特論Ⅱ	2②		1		○			1						
	生体機能化学Ⅰ	1③		1		○			1						
	生体機能化学Ⅱ	1④		1		○			1						
	生体分子工学特論Ⅰ	1・2①		1		○						1			
	生体分子工学特論Ⅱ	1・2②		1		○						1			
	有機金属化学Ⅰ	1・2③		1		○				1					
	有機金属化学Ⅱ	1・2③		1		○				1					
	有機合成化学Ⅰ	1①		1		○						1			
	有機合成化学Ⅱ	1②		1		○						1			
	放射線生物学特論	1・2③		1		○			1						
	薬理学・遺伝子工学特論	1・2④		1		○				1					
	資源植物学特論Ⅰ	1・2①		1		○			1						
	資源植物学特論Ⅱ	1・2②		1		○			1						
小計（15科目）		-	0	15	0			-	5	2	2	1	0		
演習・ 特別 研究	臨床薬剤学演習	1～2通		2				○	1						
	神経機能学演習	1～2通		2				○	1						
	生体防御学演習	1～2通		2				○	1						
	天然物創薬学演習	1～2通		2				○	1						
	資源科学演習	1～2通		2				○	1	1					
	複雑系解析学演習	1～2通		2				○	1						
	未病学演習	1～2通		2				○	1						
	漢方診断学演習	1～2通		2				○	1						
	生体機能性分子工学演習	1～2通		2				○	1			1			共同
	遺伝情報工学演習	1～2通		2				○	1						
	創薬工学演習	1～2通		2				○	1						
	生体情報薬理学演習	1～2通		2				○		1					
	生体機能化学演習	1～2通		2				○	1		1				共同
	天然物合成化学演習	1～2通		2				○		1	1				共同
	生体制御学演習	1～2通		2				○	1						
応用和漢医薬学特別研究	1～2通		10						13	8	2				
小計（16科目）		-	10	30	0			-	13	8	2	1	0		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
認知・情動脳科学プログラム科目	研究室ローテーション実習	1②		2				○	17	7	3	3		共同
	英語ジャーナルクラブ1	1・2①		1		○			17	7	3	3		共同
	英語ジャーナルクラブ2	1・2②		1		○			17	7	3	3		共同
	臨床研究の計画法	1・2④		1		○								兼5 オムニバス・共同(一部)
	情動神経科学序論	1・2④		1		○			1			2		兼1 オムニバス
	中枢神経遺伝子工学序論	1・2①		1		○			1	2				オムニバス・メディア
	小計(6科目)	—	0	7	0	—			17	7	3	3	0	兼6
認知・情動脳科学に関する専門科目	細胞内シグナル伝達系序論	1・2②		1		○			1	2				オムニバス・メディア
	細胞・システム生理序論	1・2③		1		○			1	1				兼1 オムニバス
	神経病態生理学序論	1・2④		1		○			1	1	1			兼1 オムニバス
	精神疾患学序論	1・2①		1		○			2	1	2			オムニバス
	脳認知学序論	1・2②		1		○			1	1				オムニバス
	脳機能再建学序論	1・2③		1		○			2			1		オムニバス
	神経回路時間軸序論	1・2④		1		○			1					オムニバス
	局所神経回路機能形態学序論	1・2①		1		○			1					
	認知行動生理学序論	1・2②		1		○			2					兼1 オムニバス
	中枢神経薬理学序論	1・2③		1		○			2	1				オムニバス・メディア
	認知・情動脳科学特別研究	1~2通	10					○	17	7	3	2		
小計(11科目)	—	10	10	0	—			17	7	3	2	0	兼3	
専門科目・生命工学に関する	神経システム工学序論	1・2③		1		○			1					
	人工知能学序論	1・2②		1		○			1	1				
	神経情報工学序論	1・2③		1		○			1					
	神経情報伝達物質化学序論	1・2④		1		○			2					
	分子睡眠科学序論	1・2①		1		○			1					
小計(5科目)	—	0	5	0	—			6	1	0	0	0		
メディアカルデザインプログラム	総合医薬学	1①		1		○			2					兼2 オムニバス・メディア・共同(一部)
	基礎臨床医科学概論	1①	1			○			4					兼10 オムニバス・メディア
	高度先進医療実践学序論	1③		1		○			2					兼4 オムニバス・メディア
	高度先進医療実践学特論	1④		1		○			2					兼7 オムニバス・メディア
	総合口腔科学	1②		1		○			1					兼1 メディア
	ファーマ・メディカルエンジニアリング概論I	1②		1		○			1					
	ファーマ・メディカルエンジニアリング概論II	1③		1		○			1					
	計測システム特論	1④		1		○			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
メ デ イ カ ル デ ザ イ ン プ ロ グ ラ ム	システム制御工学特論第2	1③		1		○				1					
	計算生体光学特論	1①		1		○			1						
	バイオメディカルフォトンクス特論	1②		1		○				1					
	医用超音波工学特論	1④		1		○			1	1					
	神経情報工学特論	1③		1		○			1						
	センシング工学特論	1③		1		○			1						
	画像計測システム特論	1③		1		○				1					
	バイオメカニクス特論	1①		1		○					1				
	生体情報工学特論	1②		1		○			1						
	脳・神経システム工学特論	1③		1		○			1						
	医療生命工学特論	1②		1		○			1						
	再生医療工学特論	1④		1		○			1						
	医用材料学特論	1④		1		○			1						
	デジタルコンテンツ特論	1②		1		○			1						
	視環境デザイン特論	1①		1		○			1						
	社会福祉学特論Ⅰ	1③		1		○									兼1
社会福祉学特論Ⅱ	1④		1		○									兼1	
小計(25科目)	-		1	24	0			-	20	4	1	0	0	兼21	
演 習	計測システム特論演習	2①		2			○		1						
	生体制御工学特論演習	2①		2			○			1					
	計算生体光学特論演習	2①		2			○		1						
	バイオメディカルフォトンクス特論演習	2①		2			○			1					
	医用超音波工学特論演習	2①		2			○		1	1					
	神経情報工学特論演習	2①		2			○		1						
	センシング工学特論演習	2①		2			○		1						
	画像計測システム特論演習	2①		2			○			1					
	生体情報工学特論演習	2①		2			○		1						
	脳・神経システム工学特論演習	2①		2			○		1						
	再生医療工学特論演習	1③④		2			○		1						
	人間情報学特論演習	2①		2			○		1						
	医用材料学特論演習	2①		2			○		1						
	デジタルコンテンツ特論演習	2①		2			○		1						
	視環境デザイン特論演習	2①		2			○		1						
小計(15科目)	-		0	30	0			-	12	4	0	0	0		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
特別研究	メディカルデザイン特別研究	1~2通	10					○	17	3	1	0	0	
合計 (178科目)		—	44	224	2	—			55	25	6	6	0	兼79
学位又は称号		修士(薬科学) 修士(神経科学) 修士(医工学)		学位又は学科の分野				医学関係 薬学関係 理学関係 工学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
<p>(修了要件) 2年以上在学し、学位プログラムごとに定める修了の要件として必要な授業科目の履修により所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については1年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>(履修方法)</p> <p>■創薬・製剤工学プログラム 次の履修方法により30単位以上を修得すること。 ・大学院共通科目から必修2単位を含む4単位以上 ・医薬理工学環共通科目から必修1単位を含む4単位以上 ・創薬・製剤に関する専門科目から必修10単位を含む18単位以上 なお選択単位には薬剤学演習、生体認識化学演習、がん細胞生物学演習、薬化学演習、薬品製造学演習、分子細胞機能学演習、分子合成化学演習、生体界面化学演習、構造生物学演習、薬物生理学演習、製剤設計学演習、生体機能性分子工学演習、遺伝情報工学演習、生体機能化学演習、生体材料設計学演習、計算物理化学演習、生体物質化学演習、有機合成化学演習及び生体情報薬理学演習から1科目2単位を必ず含む。 ・臨床医学に関する専門科目から2単位以上 ・生物学・応用化学に関する専門科目から2単位以上</p> <p>■応用和漢医薬学プログラム 次の履修方法により30単位以上を修得すること。 ・大学院共通科目から必修2単位を含む4単位 ・医薬理工学環共通科目から必修1単位を含む4単位 ・和漢薬に関する専門科目から2単位 ・臨床医学に関する専門科目から1単位 ・化学・応用化学・生命工学に関する専門科目から2単位 ・大学院共通科目、医薬理工学環共通科目、和漢薬に関する専門科目、臨床医学に関する専門科目及び化学・応用化学・生命工学に関する専門科目から5単位以上 ・演習・特別研究から必修10単位を含む12単位</p> <p>■認知・情動脳科学プログラム 次の履修方法により30単位以上を修得すること。 ・大学院共通科目から必修2単位を含む4単位以上 ・医薬理工学環共通科目から必修1単位を含む4単位以上 ・基礎脳科学に関する専門科目から4単位以上 ・認知・情動脳科学に関する専門科目から必修10単位を含む16単位以上 ・生物学・生命工学に関する専門科目から2単位以上</p> <p>■メディカルデザインプログラム 次の履修方法により30単位以上を修得すること。 ・大学院共通科目から必修2単位を含む4単位以上 ・医薬理工学環共通科目から必修1単位を含む4単位以上 ・メディカルデザインプログラムの専門科目から必修1単位を含む10単位以上 ・メディカルデザインプログラムの演習から選択必修2単位以上 ・メディカルデザインプログラムの特別研究 必修10単位</p>								1 学年の学期区分 4ターム						
								1 学期の授業期間 8週						
								1 時限の授業時間 90分						

授 業 科 目 の 概 要				
(大学院医薬理工学環 博士後期課程)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
大学院 共通科目	学際融合発表演習Ⅰ	自らの研究内容を他者にわかりやすく説明する能力は、博士後期課程・4年制博士課程（本項及び次項で「博士課程」という。）修了後の活躍の場（アカデミアまたは企業を問わず）において、必須となってくる。特に専門分野の異なる他者が理解できる言葉・内容で説明する能力は、専門家が集まる学会発表とは大きく異なり、相手の立場に立ってプレゼンテーションを行うことが求められる。この能力は、近年益々重要視されている分野融合において大きな意味を持つものである。学際融合発表演習Ⅰでは、博士課程1年次を対象とし、発表者のプレゼンテーションに対して、異分野の立場から質問を行うとともに、好発表を踏まえながら、自らの発表を構想する。	共同（一部）	
	学際融合発表演習Ⅱ	自らの研究内容を他者にわかりやすく説明する能力は、博士課程修了後の活躍の場（アカデミアまたは企業を問わず）において、必須となってくる。特に分野の異なる他者が理解できる言葉・内容で説明する能力は、専門家が集まる学会発表とは大きく異なり、相手の立場に立ってプレゼンテーションを行うことが求められる。この能力は、近年益々重要視されている分野融合において大きな意味を持つものである。学際融合発表演習Ⅱでは、博士課程2年次を対象とし、上記分野の異なる他者が理解できる言葉・内容でプレゼンテーションを行った上で、結果を研究指導教員等とともに振り返る。	共同（一部）	
学環 共通科目	先端研究企画演習	自立した研究者として独創的、萌芽的、分野融合的な研究課題を企画提案する能力を養うために、指導教員のもとで行う博士課程研究とは異なる内容・分野の研究課題を研究計画書の形式で作成・提案する。今後の発展が期待できる新規・萌芽的な分野やテーマを選定し、当該分野の研究状況の把握や自分の博士課程での研究分野との連携や融合も考慮しつつ新たな研究を計画し、その計画の新規性、発展性、達成可能性などを論述する。提案された研究計画書は提案内容に近い専門分野の教員が審査、評価を行った後、計画内容の向上に向けた指導を行う。		
	研究インターンシップ	企業・研究機関において、医薬品・医療福祉機器等の開発ならびに品質管理、マーケティング、営業などの業務を有機的に結びつけたインターンシップを実施することにより、実務に必要な知識やスキルと法令遵守の精神を培い、社会で主導的に活躍できる高度職業人としての自覚を養い、自身の適性を把握する。		
	国際連携実習	海外研究機関における学位論文研究に関連した共同研究あるいは関連学問分野における研修を通じて、グローバルな視点を身に付けるとともに、自らの学術的な成果を国際的に発信し、国際的な共同研究を遂行する研究者としての能力を養う。		
	日本語・日本文化	大学院から本学に進学する留学生が博士課程・博士後期課程の科目を履修し、さらに充実した大学院生活を送る際には母語及び英語のみではなく、日本語も必要となることから、本科目では以下の目標を設定し、日本語に関する教育を行う。 ・初級日本語前半の文法を学習し、それらの内、日本語基礎力に深く関わる部分が運用できるようにする。 ・日常生活の基本的な場面に必要な日本語能力や態度を学習する。 ・ひらがな・カタカナの読み書きを学び、自身にとって必要になる読み書き力の基礎を作る。 なお、本授業科目は、外国人留学生のみ履修可能とする。		
ブ創 ロ薬 グ・ ラ製 ム剤 工学	専 門 科 目	創薬・製剤工学特論	創薬・製剤に関連する専門分野における基礎知識と最終情報を概説する講義を受けて、医薬品開発に繋がる基礎研究、臨床研究、トランスレーショナルリサーチに関する最先端・最新の世界的動向を学び、研究のデザインから研究手法・解析技術、分析法や研究結果の解釈、研究成果の意義に至るまでの研究の進め方を理解し、創薬・製剤の関連領域で自立的に活躍する研究者・教育者・医療者・技術者として必要な専門知識を身に付ける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
創薬・製剤工学プログラム	創薬・製剤工学特別演習	<p>主指導教員の指導の下、創薬・製剤に関連する専門分野の最新の研究成果を収集し、その内容を精査、理解、批評する。調査結果に関する発表および質疑応答を行い、効果的なプレゼンテーションと適切な質疑応答ができるように指導を受ける。他の学生の発表に対して、質問、コメントを行い、研究の進め方、データの解釈などについての討論を行うことで、創薬・製剤の関連分野で活躍する専門家として必要な専門知識、コミュニケーション能力を醸成する。</p>	
	創薬・製剤工学特別実習	<p>主指導教員とは異なる専門分野を有する教員のもとで、調査、分析を行うとともに、異分野の研究者とのディスカッションにより自らの博士論文研究について俯瞰できる視野の涵養を図る。</p>	
	創薬・製剤工学特別研究	<p>(概要) 創薬・製剤に関連する専門分野の課題解決を目指して、各研究室において教員の指導の下、研究テーマの設定、分析・調査、実験計画の立案・遂行、実験結果の科学的考察を行い、自立的に活躍する研究者・教育者・技術者として必要な専門知識、技術を身に付けるとともに、研究倫理や関連する法令の規範意識及び人間尊重の精神を身に付ける。セミナー等を定期的に開催し、研究内容の発表および質疑応答を行い、効果的なプレゼンテーションと適切な質疑応答ができるように指導を受けるとともに、最終年度の学位論文提出、審査に向けた準備を行う。</p> <p>(10 細谷 健一、47 赤沼 伸乙) 創薬ニーズが高いアルツハイマー病や緑内障、糖尿病性網膜症などに適用可能な薬の創出を研究課題とし、輸送機構を考慮した創薬・新規DDS開発に関する研究を行う。</p> <p>(12 友廣 岳則) 新規化学プローブの開発を通して、生理活性物質の機能や生体分子相互作用の解析に関する研究を行う。</p> <p>(13 櫻井 宏明) がんの発生及び悪性化進展について、がん遺伝子およびがん抑制遺伝子の機能解析に関する研究を行う。</p> <p>(48 千葉 順哉) 化学実験と計算化学を用いて、ケミカルバイオロジーに関する研究を行う。</p> <p>(14 松谷 裕二) 新規反応開発と、その方法論を利用した生理活性化合物の有機合成を通して、新しい医薬シーズ探索のための研究を行う。</p> <p>(15 宗 孝紀) 免疫学的、生化学的、細胞生物学的な実験手法を用いて、免疫系や神経系の細胞が外界からの刺激に対してどのように応答し、これにより免疫、感染、炎症、がんなどに対する生体応答が制御される仕組みを理解し、これらが治療や医薬品の開発にどのように結びつくかに関する課題の研究を行う。</p> <p>(16 矢倉 隆之) 有機化学の手法を用いて、新規合成反応の開発および天然物合成への応用の研究を行う。</p> <p>(17 中野 実) 熱力学、速度論、分光学等の生物物理学的手法を用いて、生体界面における分子間相互作用や生体分子の集合挙動の解明と創薬への応用という課題解決に向けた研究を行う。</p> <p>(18 水口 峰之) X線結晶解析等の物理化学的手法を用いてタンパク質の立体構造解析を行い、アミロイドーシス等の疾患の原因解明や薬剤候補化合物の開発に関する研究を行う。</p> <p>(19 酒井 秀紀) 薬物とポンプ、トランスポーター、イオンチャネルの相互作用の生理学、生化学、薬理学的研究を行う。</p> <p>(50 岡田 康太郎) 分光学、製剤工学、計量化学等の物理薬理学的手法を用いて、医薬品開発における製剤の物性評価に関する研究を行う。</p> <p>(28 井川 善也、66 松村 茂祥) 非コードRNAの人工創成を取り上げ、分子デザインと人工進化による新規なRNA構造と機能の創成に関する研究を行う。</p> <p>(32 黒澤 信幸) がん、炎症、感染症に関する抗体医薬品または診断薬開発のための抗体工学に関する研究を行う。</p> <p>(55 中路 正) 合成高分子や生体高分子の特性を活かし、医療の発展に貢献できるマテリアル開発および基礎知見の集積を課題とする研究を行う。</p> <p>(57 石山 達也) 分子シミュレーション手法を用いて、材料・創薬の新規開発に必要な基礎理論の構築、ならびにそれらの開発に向けた課題解決の研究を行う。</p> <p>(58 迫野 昌文) タンパク質工学手法を用いて、タンパク質-生体高分子相互作用に関わる研究を行う。</p> <p>(33 阿部 仁) 有機合成化学のあらゆる手法を駆使して、機能性有機分子の精密合成に関する研究を行う。</p> <p>(59 高崎 一朗) 慢性疼痛・掻痒疾患等の難治性疾患に関して、メカニズムの解明および医薬品開発を目指す研究を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
応用和漢医薬学プログラム	専門科目 国際応用和漢医薬学特論	和漢薬研究を基盤とした医薬品開発に向けた、基礎研究、臨床研究、トランスレーショナルリサーチに関する、最先端・最新の世界的動向を学ぶ。また、世界の伝統医薬が、先端的科学研究によって科学的に重要な発見をもたらし、グローバルな創薬・育薬へ貢献するために必要な視点・研究について学ぶ。研究のデザインから研究手法・解析技術、分析法や研究結果の解釈、研究成果の意義に至るまでの研究の進め方を理解し、応用和漢医薬学の関連領域で自立的に活躍する研究者・教育者・技術者として必要な専門知識を身に付ける。	
	応用和漢医薬学特別演習	主指導教員の指導の下、応用和漢医薬学に関連する専門分野の最新の研究成果を収集し、その内容を精査、理解、批評する。調査結果に関する発表および質疑応答を行い、研究結果を客観的に考察する能力、論理的かつ効果的なデータのまとめ方、プレゼンテーション、質疑応答の能力を身に付けるよう、指導を受ける。一連の演習によって、応用和漢医薬学の関連分野で活躍する専門家として必要な専門知識、コミュニケーション能力を養成する。	
	応用和漢医薬学特別実習	主指導教員とは異なる専門分野を有する教員のもとで、調査、分析を行うとともに、異分野の研究者とのディスカッションにより自らの博士論文研究について俯瞰できる視野の涵養を図る。	
	応用和漢医薬学特別研究	<p>(概要) 応用和漢医薬学に関連する専門分野の課題解決を目指し、各研究室において、指導教員および副指導教員による指導のもと、研究テーマの設定に必要な研究背景の調査・分析を行い、研究目的を定め実験計画を立案する。自立的に活躍する研究者・教育者・技術者として必要な専門知識や技術を習得するとともに、研究倫理の規範意識や人間尊重の精神、研究に係る法令等を身に付ける。セミナー等を定期的開催し研究の進捗状況を発表し議論することで、研究結果を客観的に考察する能力、論理的かつ効果的なデータのまとめ方、プレゼンテーション、質疑応答の能力を身に付けるよう、指導を受け、最終年度の学位論文提出、審査に向けた準備を行う。</p> <p>(21 加藤 敦) 和漢診療学の概念に基づき、医薬分子設計、糖質生化学、創薬化学の研究手法を用いて、各種疾患に対する最適な和漢処方提案ならびに薬剤の開発をテーマとした研究を行う。</p> <p>(22 庄司 翼) 分子生物学的、ゲノム科学的手法を用いて薬用資源植物の代謝制御に関する研究を行う。</p> <p>(23 森田 洋行、51 當銘 一文、52 AWALE SURESH) NMRなどの各種スペクトル分析法や生合成遺伝子の解析法を用いて、天然資源から有用化合物を得る課題の研究を行う。</p> <p>(24 東田 千尋) 神経変性疾患の治療戦略構築を目的として、課題を設定し研究を行う。</p> <p>(25 早川 芳弘、53 渡辺 志朗) 分子生物学的、免疫学的、生化学的手法を用いて生体防御機構をターゲットにした疾患制御に関する課題の研究を行う。</p> <p>(26 中川 嘉、54 金 俊達) 分子生物学的手法を用い、和漢薬による生活習慣病発症治療を目指す研究を行う。</p> <p>(27 小泉 桂一) 生物製剤学および和漢医薬学的手法を用いて、未病状態解明の研究を行う。</p> <p>(28 井川 善也、66 松村 茂祥) 非コードRNAの機能解析を取り上げ、生化学的手法による天然および人工RNAの機能構造相関の解明に関する研究を行う。</p> <p>(31 唐原 一郎) 植物形態学及び植物生理学の手法を用いて、薬用及び有用な植物の環境応答に関する課題の研究を行う。</p> <p>(32 黒澤 信幸) がん、炎症、感染症に関する抗体医薬品または診断薬開発のための抗体工学に関する研究を行う。</p> <p>(33 阿部 仁) 有機合成化学のあらゆる手法を駆使して、機能性有機分子の精密合成に関する研究を行う。</p> <p>(59 高崎 一郎) 慢性疼痛・搔痒疾患等の難治性疾患に関して、メカニズムの解明および医薬品開発を目指す研究を行う。</p>	
認知・情動脳科学プログラム	専門科目 認知・情動脳科学特論	本講義では、神経科学および関連する学際的領域における最前線の研究動向についてセミナーを行う。最先端の研究トピックに触れることで自身の専門分野を深めていくだけでなく、幅広い知識や視野を獲得し、自身の研究に役立てていく。受講者は各セミナーを受講し、質疑応答を行うことで、能動的に参加する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
認知・情動脳科学プログラム	認知・情動脳科学特別演習	<p>演習を通して、神経科学に関連する学際的領域で自立的に活躍する研究者・教育者・技術者として必要な専門知識、コミュニケーション能力を身に付ける。本科目では以下のような目標を設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究分野に関する背景、課題や国内外の最新の研究成果を調査し、読解、評価、討論することができる。 2. 研究分野における背景に基づいて自ら課題を設定し、課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案することができる。 3. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答をすることができる。 	
	認知・情動脳科学特別実習	<p>本実習は、認知・情動脳科学プログラムに所属する各講座が提供する実習を体験することにより、さまざまな研究実験方法の知識・技術を系統的に身に付けることを目的としている。</p> <p>また、所属する講座だけでなく他講座の提供する実習も受講可能とすることで、分野横断的な技術・知識を身に付けることができる。本実習を受講し、実習内容と実習結果をまとめ、指導教員と考察について討論を行う。</p>	
	認知・情動脳科学特別研究	<p>(概要) 研究のプロセスを通して、神経科学及び学際的領域で自立的に活躍する研究者・教育者・技術者として必要な専門知識、技術を身に付けるとともに、研究倫理や関連する法令の規範意識及び人間尊重の精神を身に付ける。</p> <p>各研究室において、教員の指導の下、研究テーマの設定、分析・調査、実験計画の立案・遂行等を行い、得られた結果を科学的に考察する。</p> <p>セミナー等を定期的で開催し、研究発表および質疑応答を行い、効果的なプレゼンテーションと適切な質疑応答ができるように指導を受ける。</p> <p>最終年度、博士論文提出、研究業績発表会に向けた準備を行う。</p> <p>(1 一條 裕之、69 中村 友也) 神経科学の手法を用いて、情動と行動の発達の神経回路機構の課題の研究を行う。</p> <p>(2 井ノ口 馨、43 野本 真順) アイドリング脳に関する神経活動を取り上げ、潜在意識下の脳機能解明の研究を行う。</p> <p>(3 伊藤 哲史) 局所神経回路の構造の神経解剖学的技法を用いた詳細な解析と、その構造から生み出される生理学的機能の解析、さらに両者を統合した分析について研究の実践を行い、聴覚神経回路の機能構築について論文作成を行う。</p> <p>(44 吉田 知之) ゲノム編集技術や新規の生化学・分子生物学的手法を用いて、シナプス形成の分子機構と神経発達障害の発病機序に関する研究を行う。</p> <p>(45 高橋 努、64 樋口 悠子) 精神疾患を対象とした脳画像解析に関する研究を行う。</p> <p>(4 袴田 優子) 神経科学、認知科学、実験心理学等の手法を用いてストレスに関連する精神疾患の病態生理やその心理的介入に関する研究を行う。</p> <p>(5 高雄 啓三) 行動生理学および実験動物学的手法を用いて、認知・情動および精神疾患の病態解明、予防・治療法の開発についての研究を行う。</p> <p>(6 西丸 広史、70 松本 惇平、71 瀬戸川 剛) 神経科学的・生理学的研究手法を用いて、情動発現の神経機構を解明するための課題の研究を行う。</p> <p>(46 山本 誠士) 神経科学的または神経病態学的な研究手法を用い、神経系の正常発達や難治性神経疾患の病態進展のメカニズムの解明に関する課題の研究を行う。</p> <p>(11 久米 利明) マウスやゼブラフィッシュを含む実験動物を用い疾患モデル動物の作製を通じて、中枢神経疾患の病態解明およびその克服に関する課題の研究を行う。</p> <p>(49 田淵 明子) 転写制御と細胞形態に関する研究手法を用いて、高次脳機能とその破綻機構の解明を行うための研究を行う。</p> <p>(20 新田 淳美) 神経精神薬理、神経生理、および臨床学的手法を用いて依存症または精神病の原因解明を行い、治療薬開発に対する課題にとりくみ、最新の神経精神薬理学について研究を行う。</p> <p>(29 望月 貴年) げっ歯類の脳波・行動測定、組織解析により、概日リズムや睡眠覚醒、季節性感情障害に係わる神経機構について研究を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
認知・情動脳科学プログラム	専門科目 認知・情動脳科学特別研究	(30 松田 恒平、67 中町 智哉) 小型魚種をモデルとして生得的行動（主に摂食行動と情動行動）の脳制御機構に関する課題の研究を行う。 (34 田端 俊英) 電気生理学、蛍光イメージング、認知心理学的計測などの手法を用いて、生体情報処理の原理を究明する研究を行う。 (35 高 尚策) 機械学習と計算知能等の手法を用いて、新たな神経ニューロモデル・深層ニューラルネットワークの構築とその応用に関する研究を行う。 (40 川原 茂敬) 行動および電気生理学的手法を用いて、同期的神経活動に関する課題の研究を行う。	
メデイカルデザインプログラム	専門科目 メデイカルデザイン・アントレプレナーシップ特論	デザイン思考やバイオデザインを参考に、治療の現場におけるユーザー（患者、医療従事者など）の行動を観察してニーズを発掘し、イノベーターチームでブレインストーミングを行って革新的な医療・福祉機器・サービスの解決法を創出する手法を学ぶ。事業化に必要な投資家への「ピッチ」、プレゼンテーションについても学ぶ。	
	医療制度と医療経営特論	（概要）医学・経済学・経営学・法学という異なる専門分野の担当者が、それぞれの見地から日本の医療制度と医療経営を論じる分野横断的な科目である。履修者は、医療サービス市場の構造や公的医療保険制度・医療費の現状を把握した上で、医療法人制度と医療法人会計基準、医療法人の財務諸表の特徴と解釈の仕方、大学病院の役割と病院経営に必要な要素、医師・医療機関の民事責任などの理解を深める。 （オムニバス方式／全8回） (75 両角 良子／2回) 医療サービスの特徴、増加する医療費 (77 廣橋 祥／2回) 病院の経営主体、病院経営主体の会計ディスクロージャー制度 (72 関根 道和／1回) 医療経営のための財務諸表分析 (73 林 篤志／1回) 富山大学附属病院の役割と病院経営 (76 橋口 賢一／2回) 医療過誤訴訟における過失・因果関係	オムニバス方式
	生体運動制御特論	生物の運動を従来の制御理論の枠組みで取り扱おうとすると常に問題が発生する。機構的な問題から数学的な問題まで含め、網羅的な知識を修得する。リハビリテーションシステム、人工呼吸器、コロナ対応褥瘡予防装置、また点検業務などに応用する人間が操作するドローンの動きなどを生物が行う制御の手法を導入することで機能改善や使い勝手などの質を変えるとといった研究に必要な知識を修得する。	
	医用光工学特論	バイオフィotonics分野における重要な論文を題材として、光学の基礎、光と物質の相互作用、光の医学・生物学応用に関する知見を深める。特に、生体組織における光の吸収・散乱特性とそれらを計測・分析するための分光技術およびイメージング技術について学修するとともに、医用光計測の技術的課題と関連する最新の研究成果に関する知識を修得する。	
	臨床情報医工学特論	レーザーや光ファイバなどの先端光学デバイスを駆使した生体計測、診断、光線力学療法や画像情報処理・AI技術などを生命科学・医療分野へ応用する生体医用光学（バイオメデイカルフotonics）に関連する基礎的な原理・装置・技術、光と生体の相互作用とそのメカニズムについて体系的に解説し、工学研究者・技術者・生物学者・臨床医と協同し、分野横断的な取り組みができる素養を身につけることを目標とする。	
医用情報計測学特論	医用超音波工学を具体例として、情報の計測と処理に関する専門的知識を修得する。特に、超音波の伝搬、超音波の送信と受信に使用する超音波振動子の基礎的特性および振動子アレイを用いた超音波音場の制御とビームフォーミング、医用超音波画像の構築について学修するとともに、それらを応用した血流計測法など生体組織の機能計測法についても触れる。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
メ デ イ カ ル デ ザ イ ン プ ロ グ ラ ム	専門科目 医用超音波計測学特論	臨床の現場で用いられている医用超音波計測・医用超音波診断における信号処理・画像処理に関する知識や考え方を身に付けることを目的とする。特に、高周波数超音波を用いた医用超音波顕微鏡計測に焦点を当て、画像再構築方法や音響パラメータの推定方法に関する信号処理・画像処理技術や超音波探触子・計測方法について学修を行う。また、医用超音波顕微鏡の応用例に関連する研究論文についても触れる。	
	生体情報処理特論	生体情報処理の原理を研究したり、生体情報を用いた医療・福祉機器・サービスの開発を行うために必要な、神経系を中心とする分子・細胞・組織・個体レベルの情報処理機構およびそれらを解析するための研究手法について修得する。具体的な取り組み項目としては、ニューロンの興奮性、シナプス伝達と可塑性、イオン・チャネル、受容体、電気生理学的記録法、電気化学分析法、蛍光イメージング、トランスクリプトミクス、バイオインフォマティクスなどを含む。	
	人間情報インタラクション特論	人同士や人と人工物とのインタラクションを様々なセンシング情報を用いて改善する取り組みが進んでいる。本講義では、インタラクション当事者の認知や感情などの内部状態を反映する脳・身体・生理活動情報からインタラクションを評価・支援するアプローチについて最近の研究論文を通じて学ぶ。センシング情報を活用してインタラクションを評価・支援する手法を理解し、学んだ知識をもとに新たな研究テーマを構想し、その内容や意義をプレゼンテーションする力をつける。	
	応用計測システム特論	ロボットをはじめとする機械の知能化研究における、生物工学的アプローチや環境情報技術について述べ、これらから導かれる次世代の制御計測システムについて論ずる。次世代制御計測システムについて、関連する内外の研究を広く把握し、かつ新規な研究を着想するに必要な知識を修得する。	
	画像計測システム特論	本講義では、様々な研究分野に関連し、実利用としても重要な「三次元画像計測」と「画像認識」を取り扱う。研究分野と実応用例を体系的に調査し、新たな画像計測システムを提案して議論する機会をつくることで、「問題発見能力」、「問題解決力」、「説明力」を養うことを目指す。	
	生物流体力学特論	生物の飛翔・遊泳や体内の血流動態、食物の消化管内での流動挙動、発声時の飛沫の挙動、スポーツでの流体抵抗等、生物にまつわる様々な現象において、流体が支配的要素となっている。これらの流体関連生命現象について、力学的にモデル化し、各種計測実験や数値解析手法等を駆使して現象の本質を理解する学問であるバイオメカニクスについて論じる。特に、肉眼での直接の観測が困難な血流動態等の生体内での現象の生体外模擬や、微小スケールの現象を拡大モデルにより表現する手法を用いた実験及び数値解析について掘り下げる。付随して必要となる各種物理量の計測技術や可視化手法等についても解説する。また既存の技術や最新の研究等にも触れ、関連研究の生物模倣技術としての確立や生命現象の解明、病気の診断・治療といった臨床応用等への足掛かりとする。	
	脳・神経システムダイナミクス特論	脳・神経システムにおける同期的神経活動が感覚情報処理や運動制御において果たす役割を理解するために、同期的神経活動に関わる神経細胞（ニューロン）と神経回路の構造・機能について理解を深める。神経システムとしては、無脊椎動物の咀嚼運動リズム回路（口球神経節、口胃神経節）や嗅覚処理リズム回路（前脳、嗅葉、キノコ体）、脊椎動物の歩行（遊泳）運動リズム回路（脊髄）や呼吸運動リズム回路（脳幹）、嗅覚処理リズム回路（嗅球）などを取りあげる。	
	材料塑性加工学特論	医療製品開発には、生体接触界面における安全性、異物反応の少ない性質を有する材料が必要である。とりわけ血液に直接接触する使用環境の場合には血液適合性が要求される。これらの問題にどう答えるのかについて、最前線の取り組みを紹介し、高機能かつ安全な材料で医療機器産業における生体に適合した種々の材料創製や医療機器用高分子材料の種類と用途およびその成形加工技術などについて修得する。	
	循環動態生理特論	心不全という病態を取り上げ、循環調節に関わる自律神経機能について次の3点を中心に理解を深める。 1) 自律神経による循環調節を学ぶ。 2) 心不全における循環動態に及ぼす自律神経機能を学ぶ。 3) 上記に関する英語の専門書の内容を理解できる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
メ デ イ カ ル デ ザ イ ン プ ロ グ ラ ム	泌尿器腫瘍学特論	腎癌の診断と治療、尿路上皮癌の診断と治療、前立腺癌の診断と治療、泌尿器腫瘍に対するロボット手術、精巣腫瘍の診断と治療、泌尿器希少がんの診断と治療、高齢がん患者の治療及び副腎腫瘍の診断と治療を中心に理解を深める。	
	血液腫瘍学特論	高齢化社会の到来に伴い、造血器腫瘍の罹患患者は増加の一途を辿っている。そもそも造血器腫瘍は抗がん剤に対する感受性が高いため、抗がん剤治療の進歩は血液内科学の進歩とともにあった。より多くの抗がん剤を使えば疾患を治癒に導けるという極端な発想は造血幹細胞移植にたどり着いた。一方で、その治療法の限界は副作用と抗がん剤耐性にあった。昨今の潮流は分子標的療法と免疫療法にある。このような社会的なニーズに応えるべく、本講義では血液内科学における基礎と臨床の最先端を学ぶ。	
	メディカルデザイン特別演習	演習を通して、医療・福祉機器・サービスに関連する学際的領域で自立的に活躍する研究者・教育者・技術者として必要な専門知識、コミュニケーション能力を身に付ける。本科目では以下のような目標を設定する。 1. 研究分野に関する背景、課題や国内外の最新の研究成果を調査し、読解、評価、討論することができる。 2. 研究分野における背景に基づいて自ら課題を設定し、課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案することができる。 3. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答をすることができる。	
	メディカルデザイン特別研究	(概要) 研究のプロセスを通して、医療・福祉機器・サービスに関連する学際的領域で自立的に活躍する研究者・教育者・技術者として必要な専門知識、技術を身に付けるとともに、研究倫理や関連する法令の規範意識及び人間尊重の精神を身に付ける。 各研究室において、教員の指導の下、研究テーマの設定、分析・調査、実験計画の立案・遂行等を行い、得られた結果を科学的に考察する。 セミナー等を定期的に開催し、研究発表および質疑応答を行い、効果的なプレゼンテーションと適切な質疑応答ができるように指導を受ける。 最終年度、博士論文提出、公開による論文発表会に向けた準備を行う。 (7 絹川 弘一郎) 循環器疾患及び同疾患とつながりの深い腎疾患に関して、研究論文作成を行う。 (8 北村 寛) バイオインフォマティクス的手法を用いて、尿路性器悪性腫瘍のバイオマーカー探索に関する研究を行う。 (9 佐藤 勉) 血液悪性腫瘍を研究課題とし、その原因、診断および治療に関する研究を行う。 (34 田端 俊英) 電気生理学、蛍光イメージング、認知心理学的計測などの手法を用いて、生体情報処理の原理を究明する研究を行う。 (36 片桐 崇史) 光量子科学と情報科学の融合による医用計測・イメージングに関する研究を行う。 (37 笹木 亮) 機械の知能化研究における生物工学的アプローチや環境情報技術を基盤として、次世代の制御計測システムについて研究を行う。 (38 野澤 孝之) マルチモーダルなセンシングと情報処理の手法を用いて、人の健康な活動を支援する技術開発、またはその基礎に関する課題の研究を行う。 (60 戸田 英樹) リハビリテーションシステム、人工呼吸器、コロナ対応褥瘡予防装置、ドローンの動きなどを生物が行う制御の手法を導入することで機能改善や使い勝手などの質を変えようといった研究を行う。 (61 大嶋 佑介) 生体計測、診断、光線力学療法や画像情報処理・AI技術などを生命科学・医療分野へ応用する生体医用光学(バイオメディカルフォトンクス)に関する研究を行う。 (62 寺林 賢司、68 加瀬 篤志) 医用画像を対象とした画像解析に関する研究を行う。 (39 長谷川 英之) 超音波計測の手法を用いて、医用イメージングの課題の研究を行う。 (63 長岡 亮) 信号処理・画像処理・AIなどの手法を用いて、医用超音波計測に関する課題の研究を行う。 (40 川原 茂敬) 行動および電気生理学的手法を用いて、同期的神経活動に関する課題の研究を行う。 (41 會田 哲夫) 医用材料に関する研究の実践、指導を行い、製造技術や成形加工における課題の研究を行う。	